福岡県教育文化奨学財団振興事業

平成１７年度

幼児（３・４・５歳児）をもつ保護者の子育てに関する調査のまとめ

（電子版）

コピーOK　学校教育OK　利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。www.bunka.go.jp/jiyuriyo

福岡県立社会教育総合センター

（電子版報告書は、電子化にあたり修正等を加えてあるため、冊子の報告書とは若干の違いが生じております）

はじめに

家庭教育はすべての教育の出発点であり、乳幼児期から少年期にかけて、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやり、自制心や自立心など、人として生きていく上での基礎的な資質や能力を育成する生涯学習の原点です。

しかし、今日の核家族化や少子化、地域社会の変化や価値観の多様化、また親の家庭教育に関する考え方の変化などにより、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。

さらには、仕事で子育てに十分関わることのできない親や育児経験の不足から育児に対する不安や悩みを持つ親が増えてきていると言われています。

子どもに対する保護者の養育態度・意識は、子どもの発達に大きく関係しており、家庭の教育力の向上は緊急かつ重要な課題であり、親が安心して子どもを産み、育てることのできる環境づくりが強く求められています。

このため、当センターでは、家庭教育全般にわたる悩みにいつでも応えられるよう、家庭教育相談「親・おや電話」を設置し、相談体制の充実に努めています。さらに、本年度からは、パソコンや携帯電話を活用した子育てに関する情報の提供や相談事業の展開や各子育てグループ等のネットワークの構築を図るため、Ｗｅｂサイト「ふくおか子育てパーク」を開設しました。

また、各市町村の電話相談員等の資質向上を図る「カウンセリング講座」、家庭教育支援者の資質向上を図る「子育てアドバイザーセミナー」、子育てグループ・サークル等のネットワークの構築を図る「子育てネットｉｎふくおか」なども実施しています。

福岡県においては、保護者の養育態度・意識の傾向を探り、今後の家庭教育の在り方や家庭教育支援の在り方に関しての基礎資料を得るため、小学生・中学生・乳幼児を持つ保護者を対象に「父親・母親の養育態度・意識の実態調査」を昭和５５年から間断的に実施してまいりました。

本年度は、３・４・５歳児をもつ親を対象に調査を行いました。この調査は、原則として同じ幼稚園、保育園（所）の親を対象に平成７年から５年ごとに実施しており、今回で３回目になります。

本調査の実施、報告書の作成にあたっては「家庭教育調査委員会」を設置し、取り組んで参りましたが、今回の調査結果が本県の家庭教育振興の基礎資料としてお役に立てば幸いです。

おわりに、本事業の推進にあたり、御指導・御尽力いただきました、「家庭教育調査委員会」委員・福岡教育大学教授　井上豊久先生をはじめ、御協力いただきました幼稚園・保育園（所）、関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

平成１８年３月

福岡県立社会教育総合センター
所　長　　菊　川　　律　子
（ふくおかボランティア活動支援事業実行委員会　実行委員長）

目　次

はじめに

第Ⅰ章　調査の概要
１．調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２．調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
３．分析の基本的視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第Ⅱ章　親の養育態度
１．基本的生活習慣
（１）朝食をとる頻度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
（２）就寝時間について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
（３）起床の仕方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
（４）洗顔・歯磨きについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（５）後片付けについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（６）テレビの視聴時間について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（７）テレビゲームをする時間について・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
２．言葉のしつけと手伝い
（１）あいさつについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
（２）言語・流行語について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
（３）手伝いについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
３．「親の養育態度」に関するまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

第Ⅲ章　親子交流
１．子どもの認知
（１）友の認知について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
（２）ほめることについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
（３）叱ることについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
（４）男女を区別した子育てについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

２．子どもの受容
（１）対話について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
（２）スキンシップについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
３．「親子の交流」に関するまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

第Ⅳ章　養育意識
１．養育の目標と家庭外の教育
（１）育てる上での重点について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
（２）習い事について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
２．自己評価
（１）しつけの自信について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（２）しつけの甘さについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
３．養育の悩みや課題
（１）子育ての楽しさについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
（２）子育ての孤立感について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
（３）イライラ感について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
（４）子どもに関する不安や悩みについて・・・・・・・・・・・・・・・・２７
（５）育児に関する悩みについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
（６）悩みの解決法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
（７）望んでいる子育て支援について・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
４．「親の養育意識」に関するまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

第Ⅴ章　変遷と総合分析・提案
１．１０年間の親の家庭教育の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
２．総合的分析と提案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

第Ⅶ章　参考資料
実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
データ集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

近年の家庭教育は、過保護・過干渉の親の増加、また睡眠時間の不足や朝食をとらない子どもの増加、子どもの規範意識の低下や様々な体験活動の不足などが指摘されている。

子どもに対する保護者の養育態度・意識は子どもの発達に大きく関係しており、家庭教育力の向上は緊急かつ重要な課題である。

福岡県では、昭和５５年から５年ごとに、小学生・中学生・乳幼児を持つ親を対象に「父親・母親の養育態度・意識の実態調査」を実施してきた。

本年度は、「家庭教育調査委員会」（表６参照）を設置し、３・４・５歳児をもつ親の養育態度や意識の実態についての調査を行い、次の点を検討した。

○３・４・５歳児を持つ親の養育態度や意識の実態について明らかにする。

○平成７年度、平成１２年度に実施した４・５歳児を持つ親の調査と比較し、その経年変化をたどることで､時代とともに変化する親の養育態度や意識を明らかにする。

○保護者の養育態度や意識の実態から､現在の家庭教育の問題点とその原因等を探り、今後の家庭教育支援、子育て支援の在り方や方向性を検討する。

２　調査の方法

（１）調査の対象

本調査は、福岡県下８地区の３８幼稚園・保育園（所）の３、４、５歳児の保護者を対象に実施した。なお、調査幼稚園・保育園（所）に関しては、基本的に過去２回の調査協力園と同一の園（所）に依頼した。

各園（所）の回収できたものから記入者が父親・母親以外のものを除いた３・４・５歳児の父親１，６６６名、母親２，２３１名を有効回答とした。

有効回答者の内訳を子どもの年齢・性別で分類すると、表１・２となり、また、幼稚園・保育園(所)別、親の年代別で分類すると表３・４のとおりである。

（２）調査の方法

本調査は質問総数２８項目からなる調査票「幼児３・４・５歳児をもつ保護者の子育てに関するアンケート」により、無記名で行った。調査票は男性の保護者用と女性の保護者用を作成し、質問の構成と内容は同一のものとした。

調査票は、大きく親の「養育態度」「親子の交流」「養育意識」の３領域で構成し、「養育態度」の領域では、主に基本的生活習慣やしつけについて、また、「親子交流」では、子どもの認知や受容について、質問している。

また、「養育意識」の領域では、子どもを養育するにあたっての目標やしつけ等に対する自己評価、さらには悩みやその解決方法と今後期待する支援方法について問いかけた。

詳しい質問項目の構成については表５に示している。

（３）調査の実施方法と時期

調査の実施にあたっては、調査に協力いただいた幼稚園および保育園（所）に調査票を直接持参し、学級担任をとおして各家庭に配布し、記入をお願いした。

調査を実施した時期は平成１７年９月である。調査に協力いただいた幼稚園および保育園(所)の名称は本報告書の末尾に記載している。

表１　子どもの年齢・性別による父親数（単位：人）

	３歳	４歳	５歳	年齢不詳	合計
男子	226	341	331	2	900
女子	166	283	277	0	726
男女不詳	11	15	13	1	40
合計	403	639	621	3	1666

表２　子どもの年齢・性別による母親数(単位：人)

	３歳	４歳	５歳	年齢不詳	合計
男子	271	429	415	1	1116
女子	237	412	389	0	1038
男女不詳	11	30	35	1	77
合計	519	871	839	2	2231

表３　子どもの幼稚園・保育園（所）・年齢別による親数(単位：人)

		３歳	４歳	５歳	年齢不詳	小　計
父親	幼稚園	264	291	268	2	825
	保育園	119	335	336	0	790
	不　詳	20	13	17	1	51
	小　計	403	639	621	3	1666
母親	幼稚園	364	431	378	0	1173
	保育園	135	409	422	2	968
	不　詳	20	31	39	0	90
	小　計	519	871	839	2	2231
合計		922	1510	1460	5	3897

表４　親の年代別人数　（単位：人）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	未記入	合計
父親	2	166	1045	417	30	0	6	1666
母親	0	352	1561	314	0	0	4	2231
合計	2	518	2606	731	30	0	10	3897

表５　調査票の構成

<table>
<tr><th>養　育　行　動</th><th>親　子　の　交　流</th><th>養　育　意　識</th></tr>
<tr><td>基本的生活習慣</td><td>子どもの認知</td><td>養育の目標</td></tr>
<tr><td rowspan="3">１．朝食
２．就寝時刻
３．起床の仕方
４．洗顔・歯磨き
５．後片付け
６．テレビの視聴時間
７．テレビゲームで遊ぶ時間</td><td>11. 友の認知
12. ほめる
13. 叱る
14. 男女の区別</td><td>17. 育てる上での重点
18. 習い事</td></tr>
<tr><td>子どもの受容</td><td>自己評価</td></tr>
<tr><td>15. 対話
16. スキンシップ</td><td>19. しつけの自信
20. しつけの甘さ</td></tr>
<tr><td>言葉のしつけと手伝い</td><td rowspan="2"></td><td>養育の悩み</td></tr>
<tr><td>８．あいさつ
９．言葉の乱れ
10. 手伝い</td><td>21. 子育ての楽しさ
22. 子育ての孤立感
23. イライラ感
24. 子どもの不安・悩み
25. 子育ての悩み
26. 悩みの解決法
27. 望んでいる子育て支援</td></tr>
</table>

※１～27の番号は、アンケートの質問項目番号（28番は子育てについての意見等自由記述）

３．分析の基本的視点

調査結果の分析は、調査票の構成に沿って行った。質問毎の特徴や傾向を把握するために、結果の集計は父親・母親別に行い、パラメーターとして幼稚園・保育園(所)別、年齢別、男女別に分析し、それぞれについて説明した。

さらに、平成７年度、１２年度に実施された調査と比較検討し、１０年間の親の養育行動・意識の変化のありようについて分析・考察を行った。

なお、分析にあたり、○は平成１７年度の調査からわかったこと、◎は平成７年度、１２年度、１７年度の調査の経年比較からわかったこと、●は平成１７年度の調査のクロス分析（項目関連分析）からわかったことを表しています。また、各質問ごとのグラフについては、無回答の度数を省略させていただきました。ご了承ください。

表６　家庭教育調査委員会委員

	氏　　名	所　属・職　名	備　考
1	井　上　　豊　久	福岡教育大学　教授　　福岡教育大学附属幼稚園長	委　員　長
2	菊　川　　律　子	福岡県立社会教育総合センター　所長	副委員長
3	高　橋　　章	福岡県立社会教育総合センター　副所長	
4	田　中　　正　則	福岡県立社会教育総合センター　研修・情報班長	
5	生　田　　潔	福岡県立社会教育総合センター　総務班長	
6	松　中　　祥　泰	福岡県立社会教育総合センター　社会教育主事	担当　（主）
7	菅　原　　順　子	福岡県立社会教育総合センター　社会教育主事	担当　（副）

Ⅱ．親の養育態度

１．基本的生活習慣

幼児期における基本的生活習慣づくりは最も重要な課題の一つであろう。繰り返し伝えていくことで生活のリズムをつくっていくことが求められる。この基本的生活習慣の確立のための親の関わりを「朝食をとる頻度」「就寝時間」「起床のさせかた」「洗顔・歯磨き指導」「後片付けのさせ方」「テレビの視聴時間」「テレビゲーム使用時間」から考えてみる。

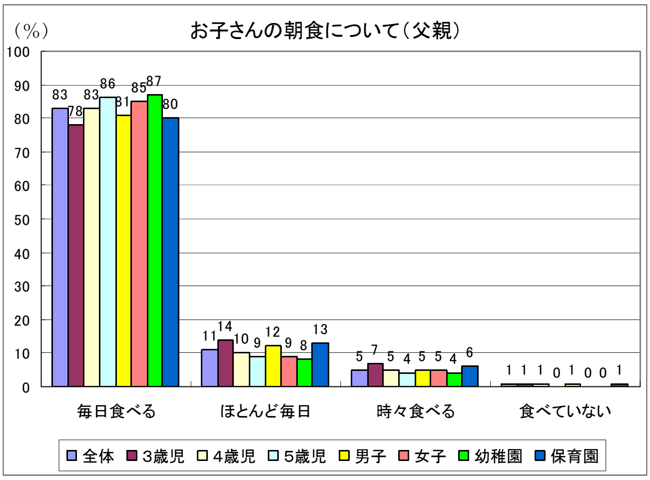
（1） 朝食をとる頻度について

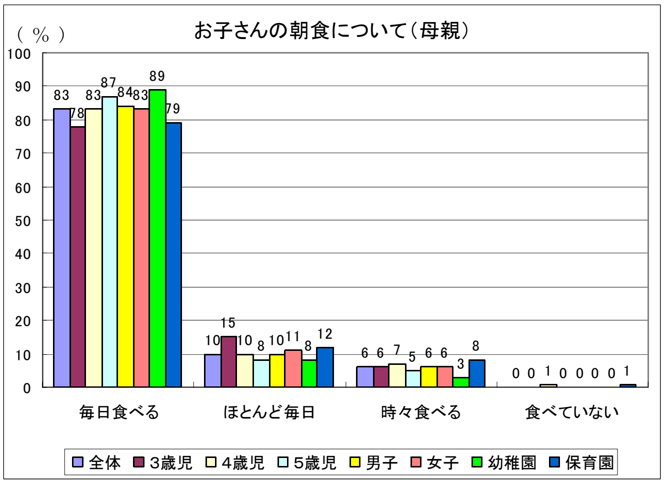
あなたのお子さんは、朝食を食べていますか

○「毎日食べる」と答えた割合が最も高く、父親、母親ともに８３％と高い割合になっている。

○子どもの年齢が上がるほど、「朝食をとる」頻度は高くなり、保育園よりも幼稚園の割合が高くなっている。要因として、保育園に比べて幼稚園の始まりが一般に遅いというだけでなく、保育園の母親は仕事に出るため、朝は時間が取りにくいということが考えられる。

○朝食をきちんととることは、子どもの身体の発達にとって重要であるが、食欲は、生活リズムや遊びに大きく左右されるということにも留意が必要である。





（2） 就寝時間について

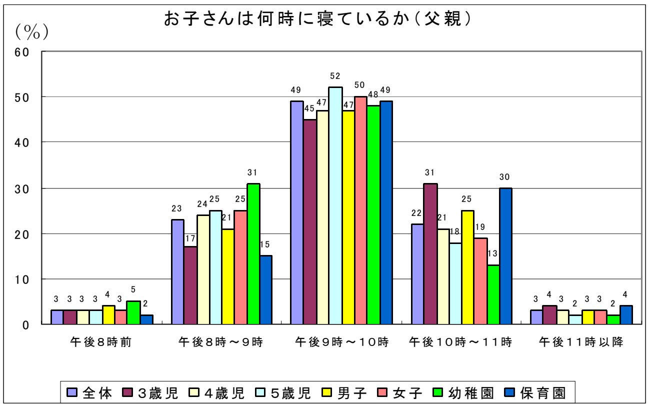
あなたのお子さんは、だいたい何時に寝ていますか

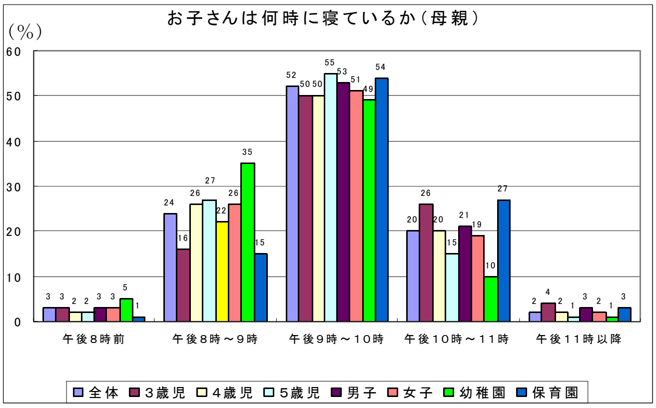
○父母ともに「午後９時～１０時」と答えた割合が最も高い。

○幼児が充分な睡眠をとるためには、９時前には寝る必要がある。しかし、「午後９時前（「午後 8 時前」と「8 時から９時」をたしたもの）」と答えた割合を見てみると両親とも約３割に過ぎない。父親については、年齢の低い３歳が５歳より 8 ポイント低く、また保育園が幼稚園より１９ポイント低くなっている。母親についても父親と同様、年齢の低い３歳が５歳より１０ポイント割合が低く、保育園が幼稚園より２４ポイント低くなっている。

○「子どもが午後１０時以降に寝る」の父親の割合は、幼稚園が１５％、保育園が３４％と１９ポイント差となっている。母親も同様に幼稚園が１１％、保育園が３０％と１９ポイント差となっている。

○幼保間に見られる格差の要因として、保育園（所）では、午睡をとるところもあり、子どもの就寝が遅くなる要因の一つとして考えられるが、保育園の場合、親、特に母親も遅く帰ってくるため、子どもも寝る時間が自然と遅くなっているのではないかと考えられる。また、結果として子どもの生活時間が親の生活リズムに合わせられてしまっていることが懸念される。





（3） 起床の仕方について

あなたは、今朝お子さんをどのように起こしましたか

○父母ともに「声をかけた」、「起こす前に自分で起きた」と答えた割合が高い。

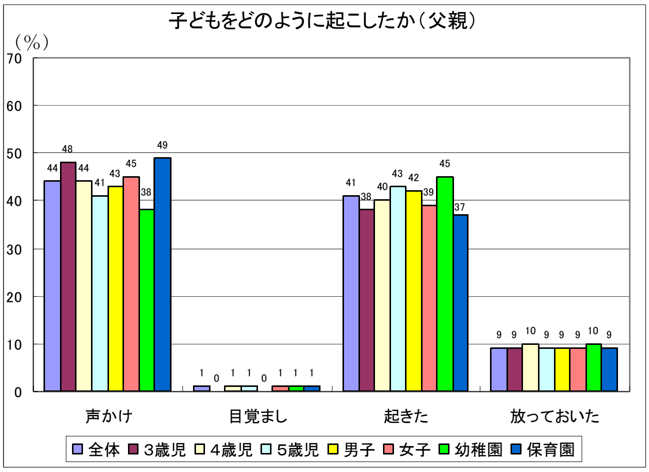
○自立起床の一つとして「起こす前に子どもが自分で起きた」と答えた父親の割合は、年齢が上がるにつれ高くなるとともに幼稚園と保育園とでは、保育園が８％低く幼保間で差が見られた。母親については、年齢間で、それほど差は見られない。

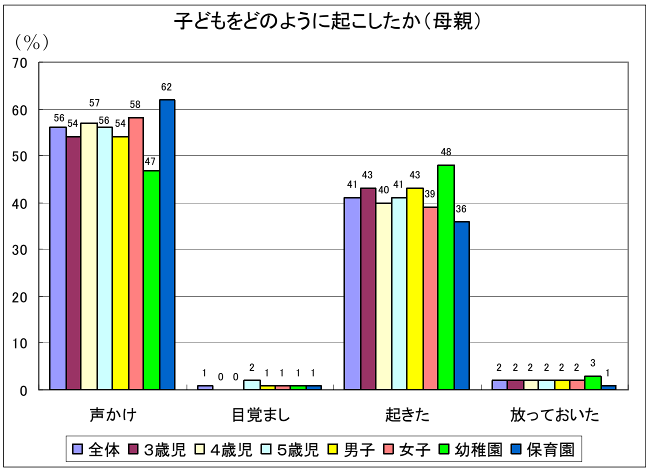
○幼稚園、保育園（所）での開始時間の違いと親の就業条件から自分と一緒に出るためには「早く起こさないといけない」という事情も推測される。

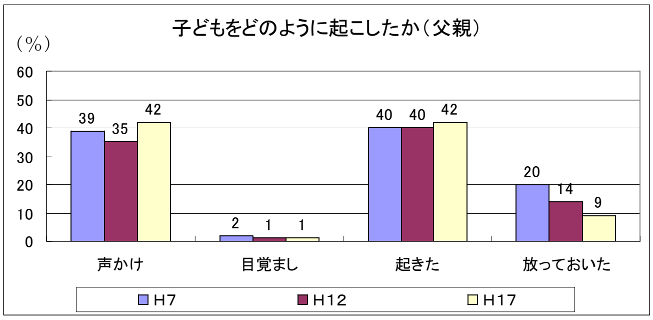
○前出の結果と併せて、就寝時間が遅く、起床時間も早い保育園の子どもは、幼稚園の子どもに比べて睡眠が充分にとれていないことが推測され、そのために自立起床が困難に成りがちであると推察される。

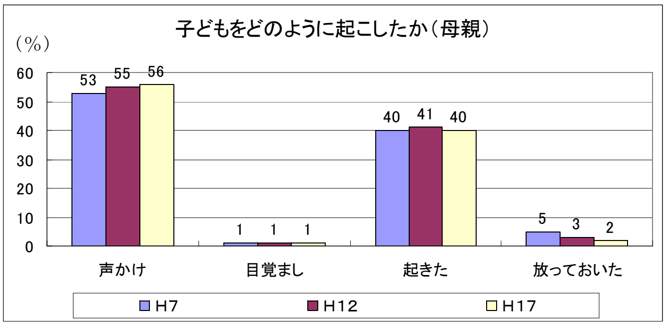
◎「放っておいた」父親の割合を平成 7 年度と、１２年度の調査を比べると減少してきており、明らかに父親の関わりが増えてきたことがわかる。

◎幼保別では幼稚園児が自立起床ができているといえるが、平成７年度の調査では格差があまりなく、平成１２年度の調査では格差が大きかったが、今回はその中間といった結果であった。









（４） 洗顔・歯磨きについて

あなたは、お子さんに洗顔や歯磨きをどのようにさせていますか

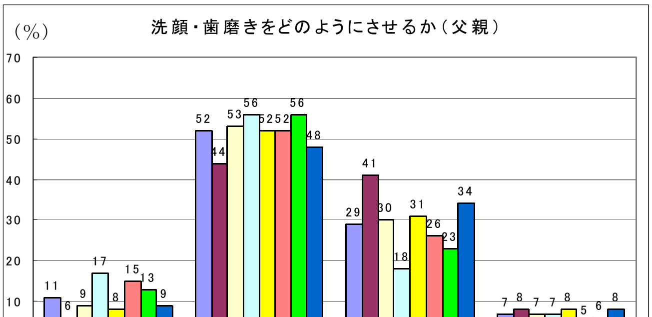
○洗顔・歯磨きは、やはり親を模倣しながら「自分もしたい」と真似するところから始まるのが基本であろう。しかし、調査では、父母ともに「言ってさせている」と答えた割合が最も高い。

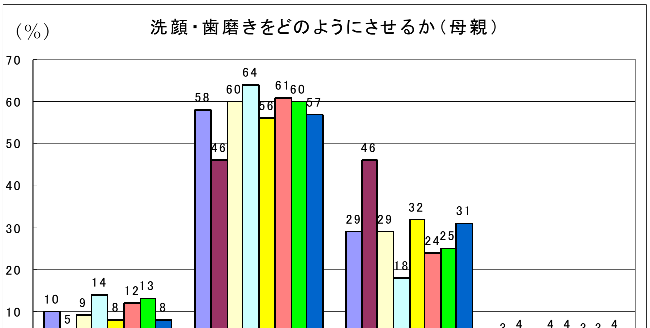
○「言ってさせている」と答えた割合を見てみると、父親５２％、母親５８％と、ともに年齢が上がるにつれて「言ってさせる」割合が高く、逆に「手伝ってさせている」割合は年齢が上がるほど割合は低くなっている。

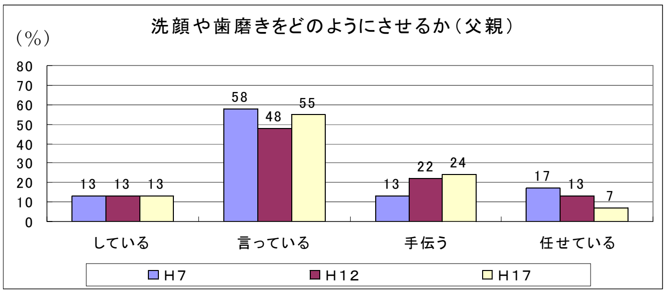
○幼稚園は保育園よりも「言ってさせている」割合が高く、逆に保育園が「手伝っている」割合は高い。

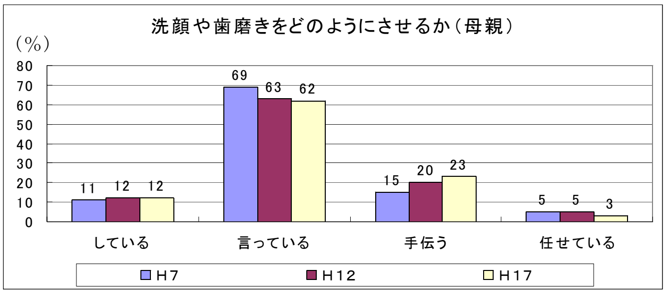
◎父母別に４．５歳児の合計で変遷を平成 ７ 年度、１２年度と比べてみると「手伝ってさせている」割合は父親で平成７年１３％、平成 12 年２２％、今回２４％と１１ポイント、母親で平成７年度１５％、平成１２年度２０％、今回２３％と ８ ポイント割合が増加しており、子どもの世話をする親は確実に増えている。

◎反対に「しなくても子どもに任せている」割合は父親で平成７年度１７％、平成１２年度１３％、今回７％と１０年間で１０ポイント下がっており、放任の父親が減り、父親の子育て参加が進んできていることが見て取れる。









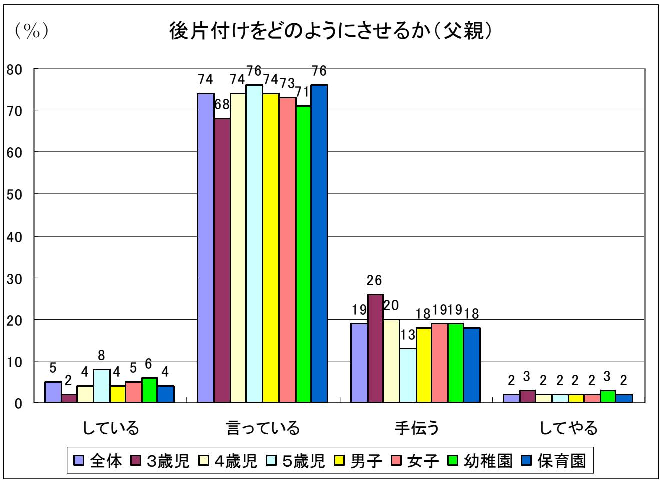
（５） 後片付けについて

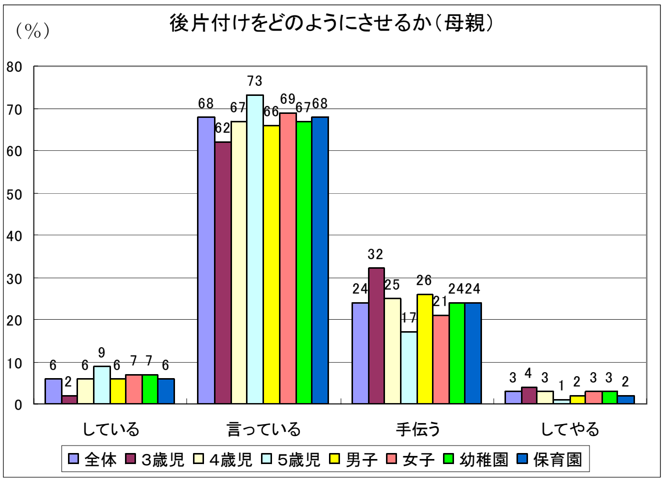
片づけは幼児にとって簡単ではないが、生活習慣としてきちんと位置づけていくことは重要である。

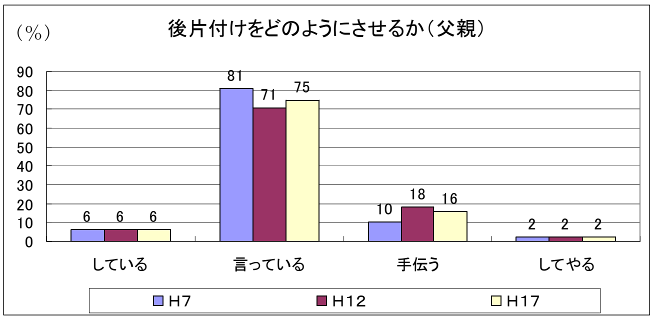
あなたは、お子さんが遊んだあとの後片付けをどのようにさせていますか

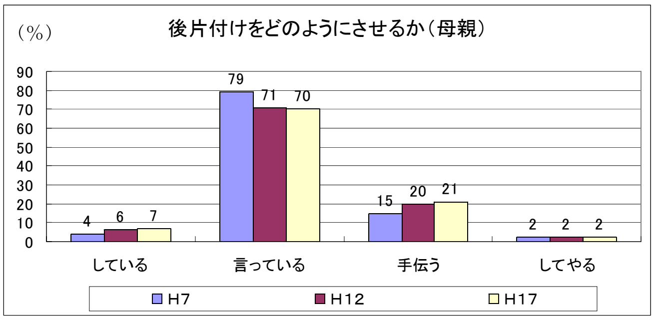
○「言ってさせている」と答えた割合が父７４％、母６８％と、ともに最も高い。

◎ここ１０年の変遷を見ると、洗顔・歯磨きと同様に「言ってさせている」割合が減り、「手伝ってさせている」割合が増加する傾向にある。









（６） テレビの視聴時間について

現代、子どもにとってだけではなく、親にとってもテレビは空気のような存在であり、生まれたときから情報を届けてくれる便利な機械である。子どもの早期教育にもビデオが活用されるなど、日本の子どものテレビ視聴の長さは世界の中でも割合が高く、日本小児医師会などその長時間接触の問題性を指摘する団体も出てきている。

あなたのお子さんは、ふだん１日にどのくらいテレビ（ビデオも含めて）を見ていますか

○「１～２時間」と答えた割合が最も高くなっている。

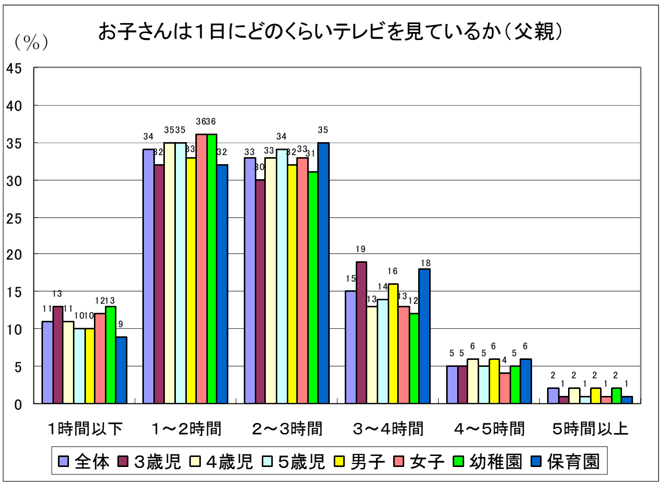
○全体としてはテレビの視聴時間はわずかながら減少傾向にあると言えよう。

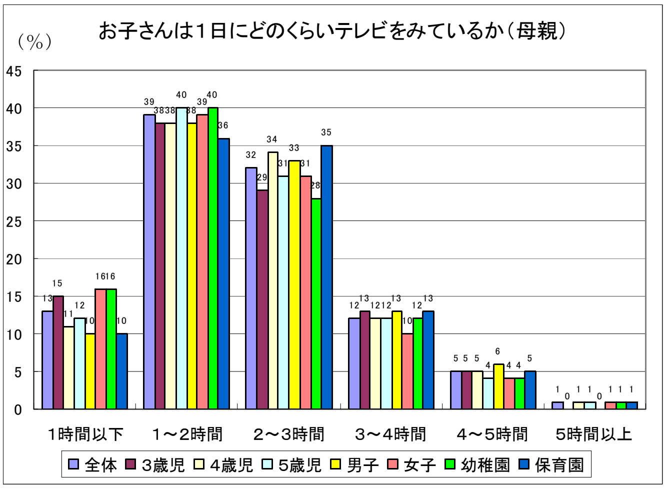
◎「３時間以上」と答えた割合を平成１２年度と比べてみると母親では平成１２年度１４％であったのに

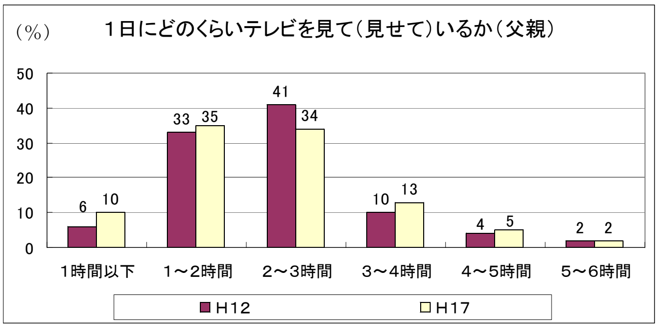
対し、今回は１８%と若干増加している。

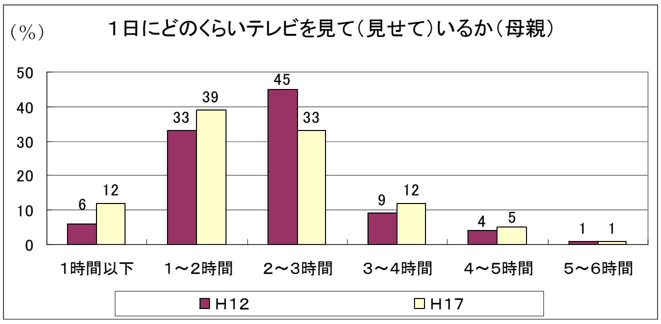
○「３時間以上」と答えた割合を保育園・幼稚園別に見てみると、父親については、幼稚園が１９%、保育園が２５%、母親については、幼稚園が１７%、保育園が１９%を視聴していることがわかる。相対的に家庭にいる時間は短いであろうと思われる保育園児のほうがテレビの視聴時間は長い。

○その要因として、帰宅後の家事等が忙しい中で、子守り代わりにテレビやビデオに子どもを任せてしまっているのではと考えられる。









（７） テレビゲームをする時間について

あなたのお子さんは、テレビゲーム（携帯型ゲームも含む）を１日どのくらいしていますか

○父母ともに「全くしない」と答えた割合が最も高くなっている。

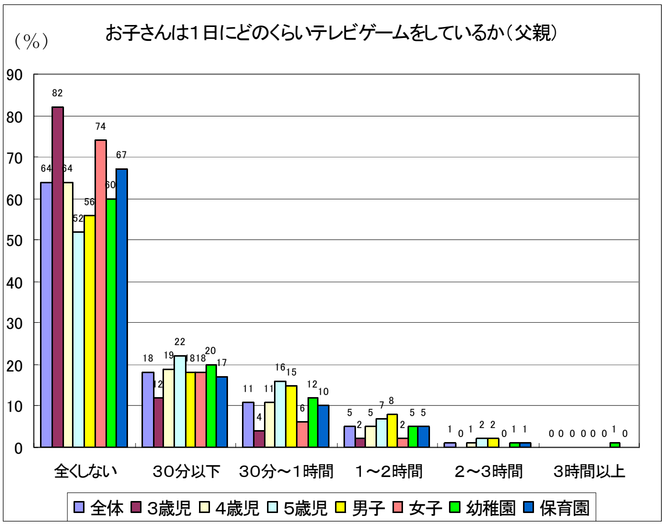
○「全くしない」と答えた割合を子どもの年齢別、男女別、保育園・幼稚園別に見てみる。父親については、３歳児は８２%、４歳児は６４%、５歳児は５２%、男子は５６%、女子は７４%、幼稚園は６０%、保育園６７%となっている。母親については、３歳児は８４%、４歳児は６６%、５歳児は５４%、男子は５８%、女子は７５%、幼稚園は６１%、保育園は７１%となっている。

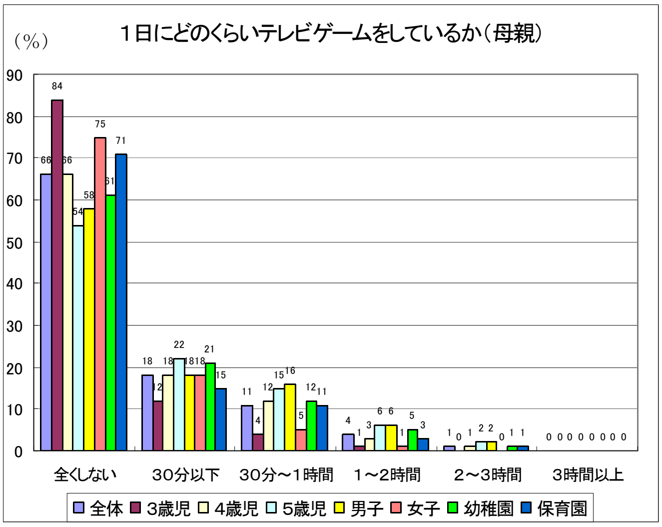
○ゲームは男子の割合が高く、年齢が上がるほどゲームをしている割合は高くなる。保育園よりも幼稚園の子どものほうがゲームをしている割合が高い。

○５歳児では、すでに約半数がゲームをしているという実態である。

○割合的には少ないにせよ、１日に、２時間以上ゲームで遊んでいる子どもがいる。

○テレビの時間は若干減ってもゲームを合わせるとメディアへの時間接触は減っていないというのが現状である。テレビやゲームの視聴時間の増加は、単に視力や聴力への問題性だけでなく、人間形成の上でとても大切な親子交流や子ども自身の直接体験の機会を奪うものとして考えていく必要があろう。





２．言葉のしつけと手伝い

言葉に関わる生活習慣は人間社会で生きる上で基本となるものであり、手伝いは家庭での役割や労働観の基礎をつくるものとして重要である。

（１） あいさつについて

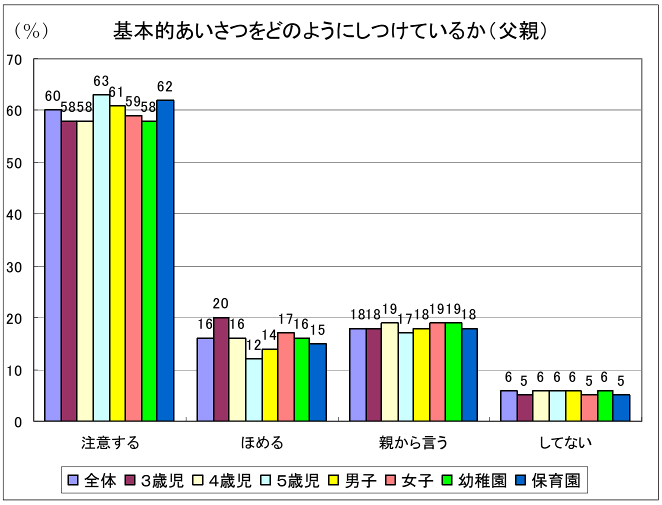
あいさつは、人間社会の礼儀であると共にコミュニケーションの基礎手段でもあり、生活習慣として身につけるべき重要なものと考えられる。

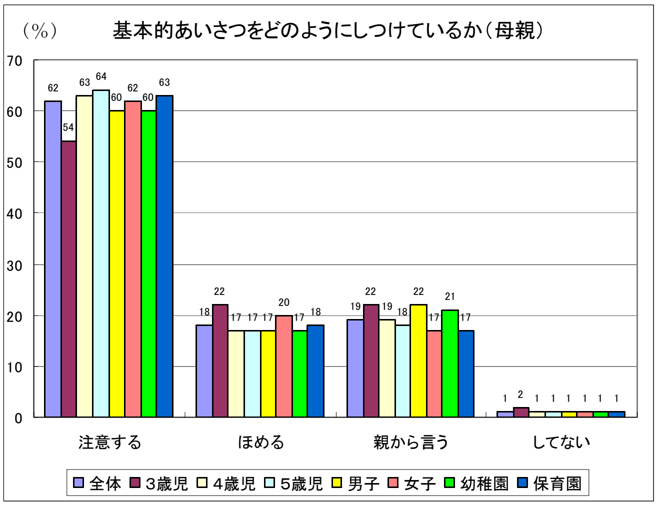
あなたは、お子さんに『はい』『ありがとう』『おはよう』などの基本的あいさつをどのようにしつけていますか

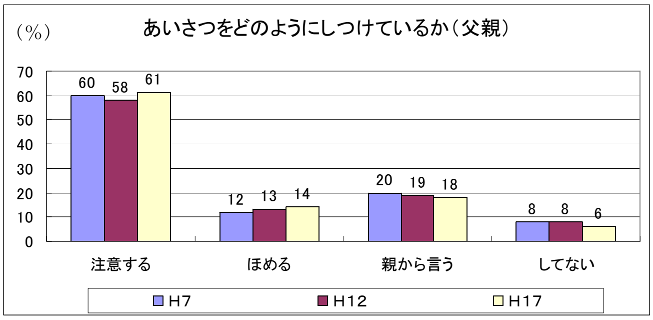
○父母ともに「言わないときに注意する」と答えた割合が最も高くなっている。

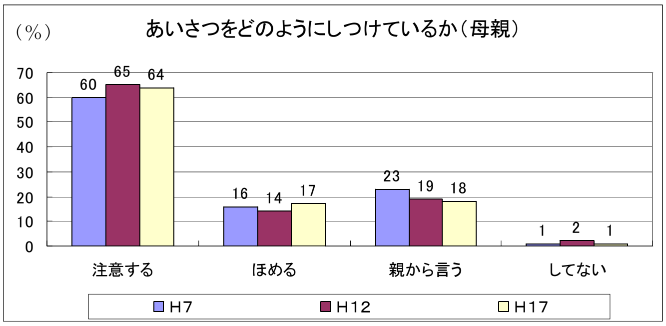
○「言わないときに注意する」と答えた人を子どもの年齢別、男女別、幼稚園・保育園別に見ても、全体として「注意する」割合は約６割で１０年間であまり変化はみられないが、父母ともに、年齢が上がるほど割合は高くなっている。

○「言ったときにほめる」「親が言う」は各々２割足らずであるが、真似てあいさつをし、子どもはほめられ続けて行うことが多く、親が率先してあいさつする姿勢を見せたり、あいさつの気持ちよさや交流の楽しさを味合わせたりすることが基本となろう。







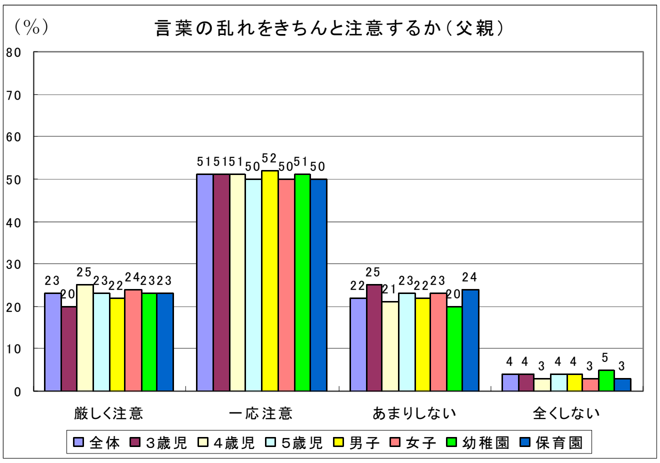


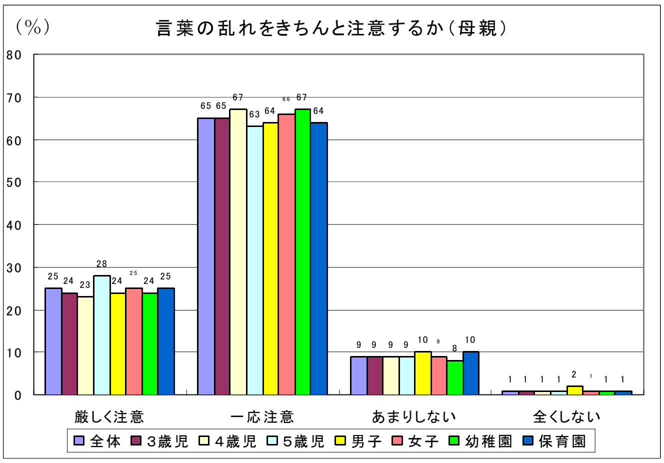
（２） 言語・流行語について

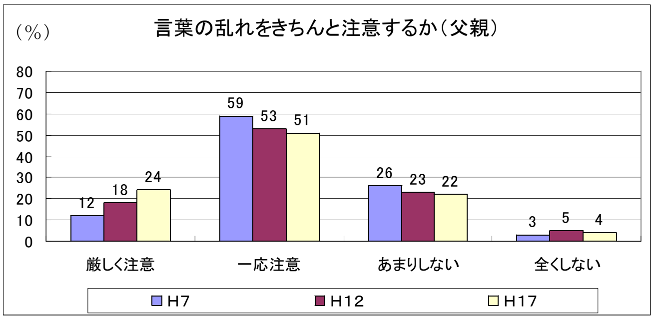
あなたは、お子さんの言葉の乱れや流行語の使用をきちんと注意していますか

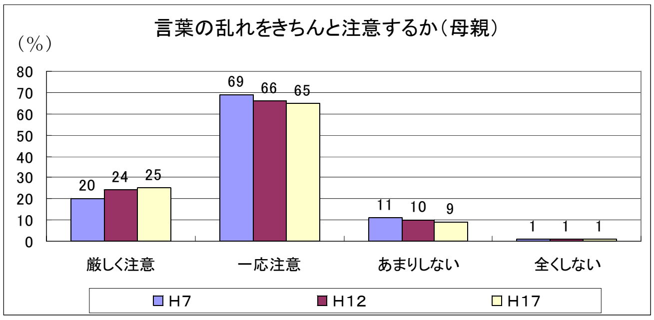
○父母ともに「一応注意している」と答えた割合が最も高くなっている。

◎「厳しく注意する」と答えた父親の割合は平成７年度が１２%、平成１２年度が１８%、今回が２４%と１２ポイント、母親は平成７年度が２０%、平成１２年度が２４%、今回が２５%と５ポイント増加しており、言葉を大切にしようとする意識の現れではないかとと考えられる。しかし、実際の幼児の言葉使いを聞くと、メディア等の影響からか、親の意図するところと違う現状も垣間見られる。









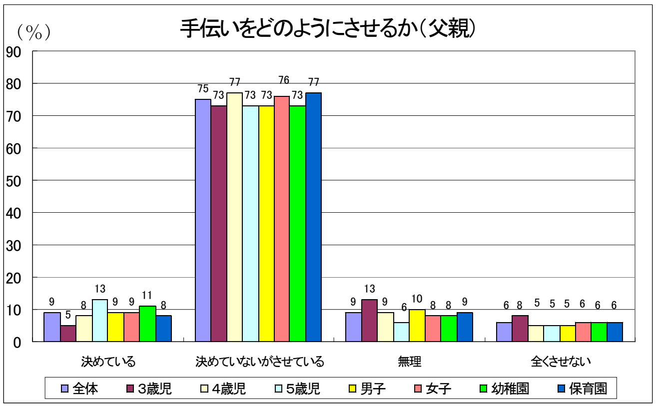
（３） 手伝いについて

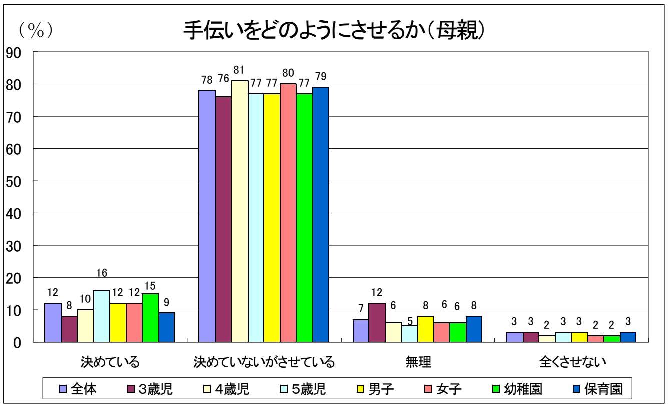
あなたは、お子さんにどのようにお手伝いをさせていますか

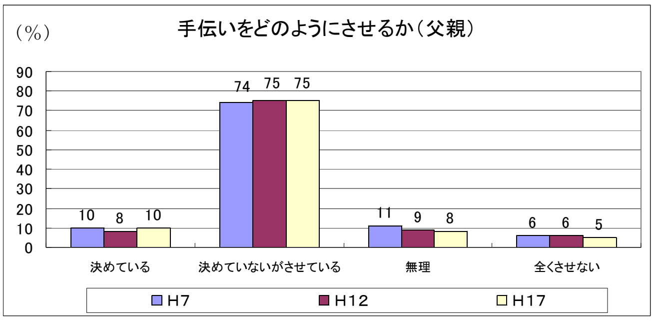
○父母ともに「特に決めていないがさせている」と答えた割合が最も高くなっている。

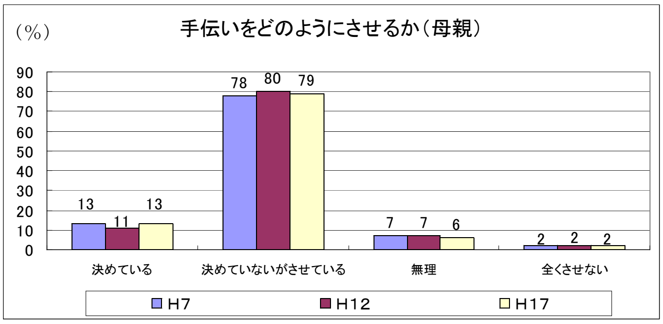
「特に決めていないがさせている」と答えた割合を子どもの年齢別、男女別、保育園・幼稚園別に見てみる。父親については、３歳児は７３％、４歳児は７７％、５歳児は７３％、男子は７３％、女子は７６％、幼稚園は７３％、保育園は７７％となっている。母親については、３歳児は７６％、４歳児は８１％、５歳児は７７％、男子は７７％、女子は８０％、幼稚園は７７％、保育園は７９％となっている。

◎父親、母親はともに、ここ 10 年変わりがない。「決めてさせている」割合は年齢が上がるに従って高くなるが、全体として割合は、ここ１０年間約１割と、変化はあまりみられない。





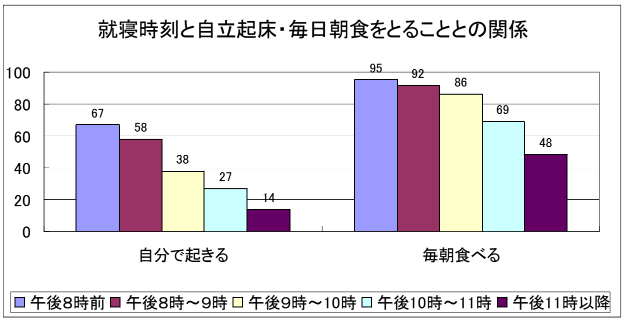




3　「親の養育態度」に関するまとめ

○「基本的生活習慣」に関しては、全体として生活習慣定着の重要性に対する認識が薄いといえよう。

【資料１】

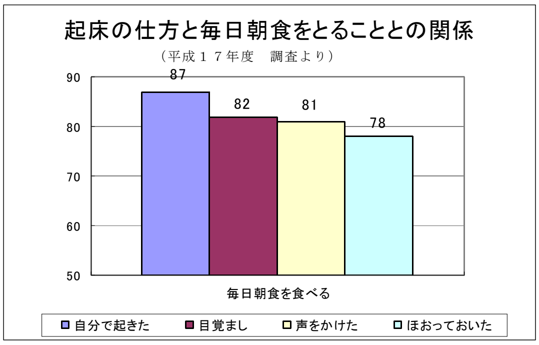


●【資料１，２】のように「就寝時間が遅い」ことと「朝食が食べられない」「自立起床ができない」こととの関連性と「起床の仕方」と「毎日朝食をとること」との関連性も見られた。

「早寝、早起き、朝ご飯」の生活習慣は最も大切に大切にされなければならない。

●メディアに関しては、【資料３】のように長時間視聴する子どもほど就寝が遅くなる傾向にある。

【資料２】



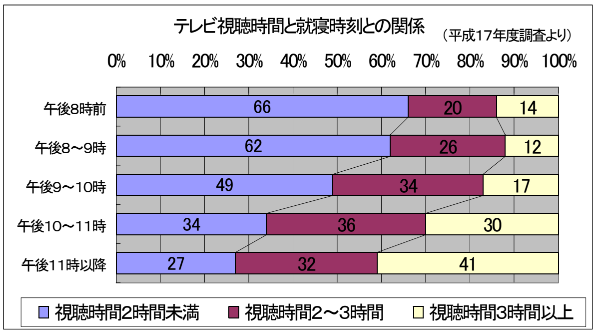
●「テレビの視聴２時間未満」の子どもでは、「毎日朝食を食べている」割合が８９％に対して「３時間以上テレビを視聴している」子どもでは、「毎日朝食を食べている」割合が７１％と激減する。

(【資料４】参照)

○電子映像メディアの問題を提起し、メディアと主体的に関わるきっかけづくりやつきあい方を提示するなど、特別な啓発や実践が必要であろう。

○基本的な生活習慣や言葉づかい、そして社会的責任などをねばり強く身につけさせるために、寄り添い、支えていくことが求められよう。

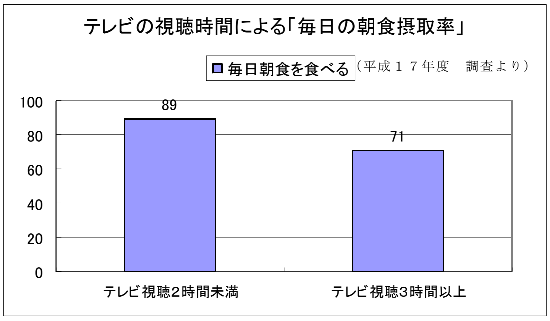
【資料３】



○子どもが自ら判断したり行動したりする前に、親が手取り足取り手伝っている傾向が強まっていると思われる。子どもの自立のために教育するというよりも、子どもの生活の世話をする傾向が強まっている。子どもの発達に応じ、子ども自身が問題解決をしていく機会やそのときの支援、支えが親には求められる。

○総体的に、親は幼児期の子どもにはついつい甘くなる一方で、子どもが成長し思春期を迎えると神経質になったり、過干渉になったりする場合が多々ある。将来を見越して、基本的生活習慣の形成を図る際には、子ども自身が体験したことを現実として認識し、次にどうしていくかを考えるための選択機会の提供や問題解決の材料を示していくことが重要である。

【資料４】



○現実生活の中で親は、自分自身の生活や活動とも関係して、子どもを急がせがちである。しかし、子どもの一生涯を見通し、成熟した大人になるためには、子どもの発達段階に応じて形成させておかなければならないものは何かをもう一度考えておく必要があろう。

Ⅲ　親子交流

1　子どもの認知

それぞれの子どもには、成長による変化や個性があり、どの子にも一様にあう子育てなど存在しないであろう。 乳幼児は、愛情深い親の関わりに直接触れることで、愛着関係が形成され、安心して外の世界に向かうことができるものである。

子どもとの関わりや意識の実態を親がどのようにとらえているのかを、「友の認知」「ほめる」「叱る」「男女の区別」という４つの設問から考えてみる。

（１） 友の認知について

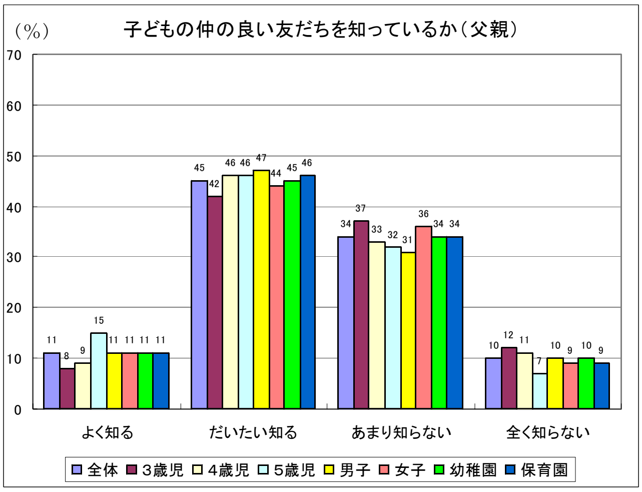
あなたは、お子さんの仲のよい友達を知っていますか

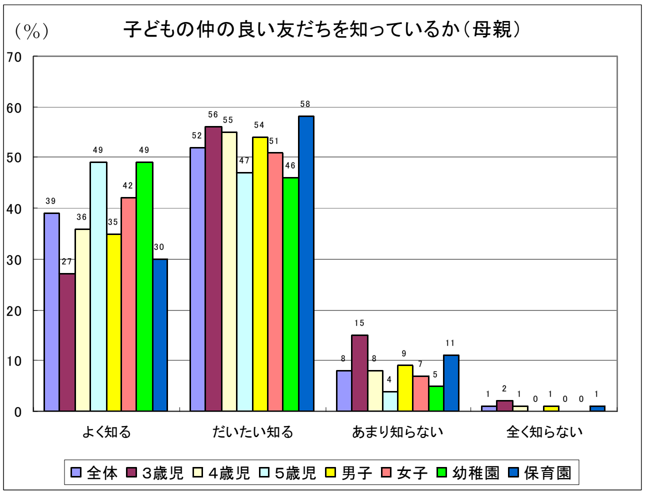
○「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した父親は合わせて５６％、母親が９１％であった。母親の９割以上が子どもの交友関係を把握しているのに対し、父親はその約半数である。

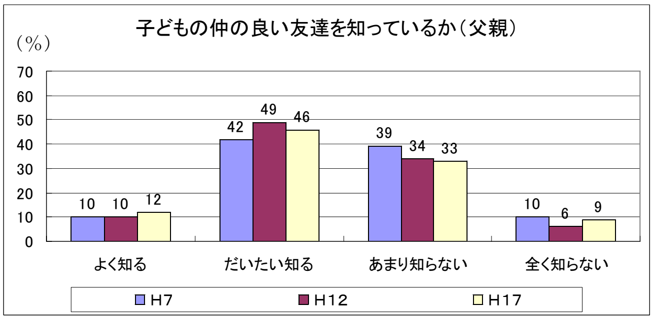
○子どもの年齢別に見ると、父母ともに子どもの年齢が上がるごとに、５ポイント以上の増加がみられる。これらは、加齢による仲間関係の発達にともなって、いわゆる「仲良し」といわれるような、よくいっしょに遊ぶ友達が特定されやすくなるためではないかと思われる。

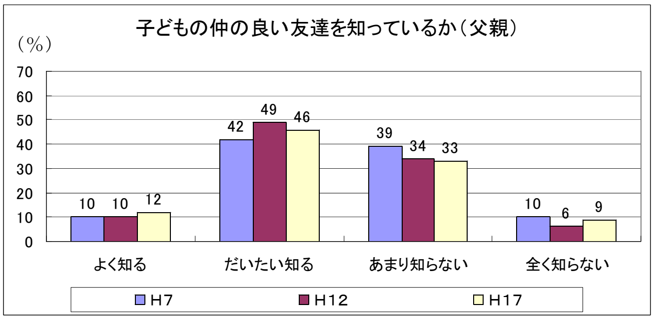
○「子どもの仲の良い友達を知っている」と答えた母親は、幼稚園の方が保育園より７ポイント高い。この点は、仕事をしている保育園（所）の母親よりも、幼稚園児の母親の方が、園内の活動や降園後に友達と遊ぶ子どもの姿を見守る時間を確保しやすいからではないかと考えられる。

◎４・５歳児の親のみの比較によると、父親は平成７年度より６ポイント増加しており、１０年の間に園行事への参加や子どもの日常に目を向ける機会が増えたのではないかと思われる。









（２） ほめることについて

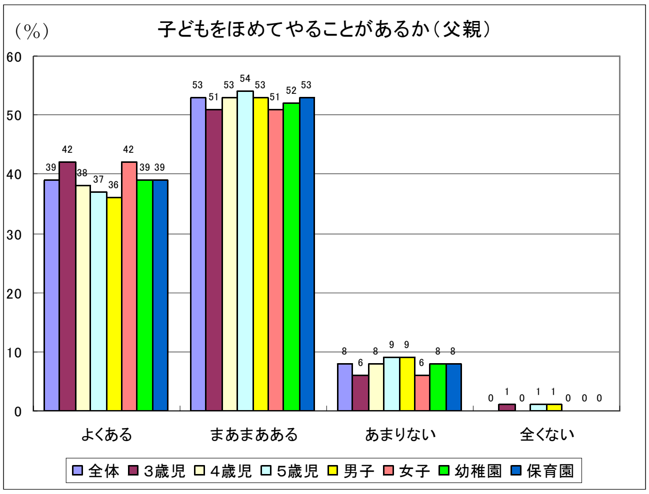
あなたは、お子さんをほめてやることがありますか

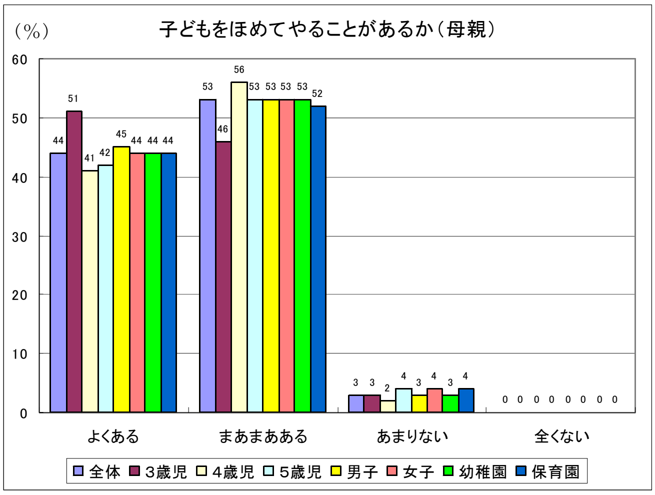
○「よくある」「まあまあある」と回答した父親は合わせて９２％、母親は９７％であり、父母ともに大半の親が子どものよいところを認めようとする姿勢をもっていることがわかる。

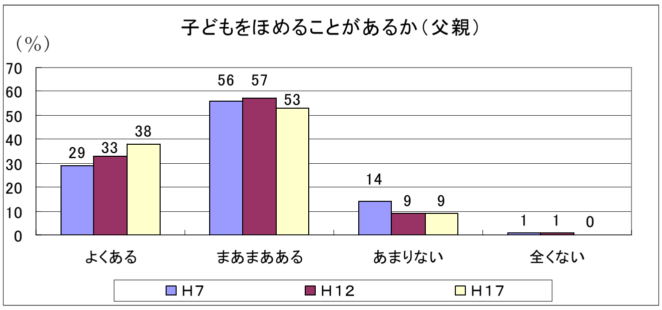
○「よくある」のみで比較してみると、父親は、５歳児より３歳児の方が５ポイント高く、母親では、３歳児は４歳より１０ポイント、５歳より９ポイント高くなっている。これはおそらく加齢とともに子どもの評価が多少辛くなっていくためであろう。

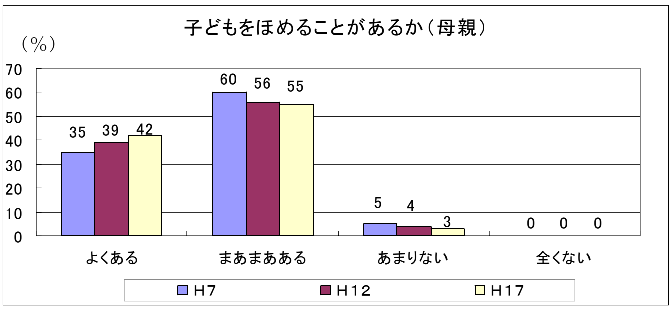
◎４・５歳児のみの比較において、父親は、「よくある」が平成７年度の２９％から、平成１２年度の３３％を経て、今回３８％へと増加しており、「まあまあある」を含めても確実に増加している。

◎母親は、「よくある」「まあまあある」の合計では、天井効果によるのか年度間に変化は認められない。しかし「よくある」の割合が、平成７年度から今回は７ポイント増加している。ほめることの重要性が雑誌等でも示されたこともあろう。









（３） 叱ることについて

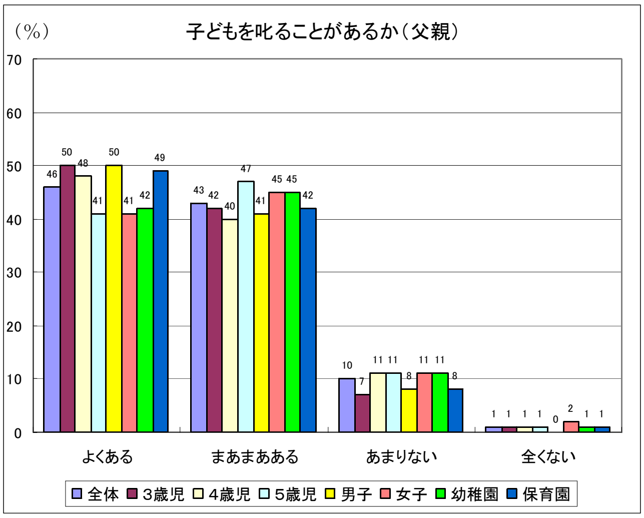
あなたは、お子さんを叱ることがありますか

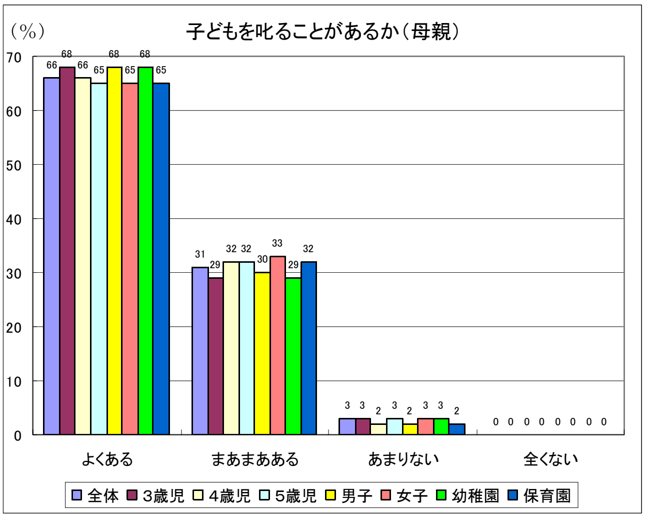
○「よくある」と答えた父親は４６％、母親は６６％である。「まあまあある」という答えた父親は４３％、母親が３１％、また「あまりない」「全くない」を合わせると、父親１１％、母親３％である。この場合、かなりの割合でみられる「まあまあある」という対応がどのようなものか明確ではないが、マナーやモ

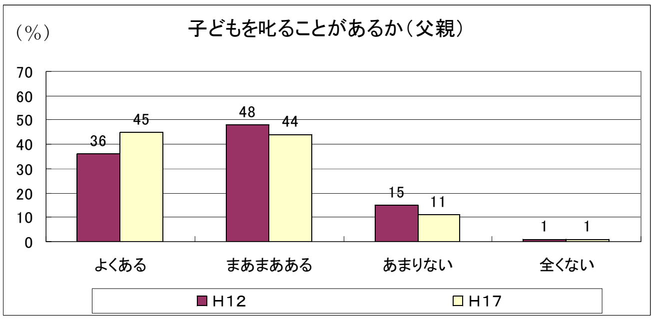
ラルに関する意識があいまいになっている親も少なくないのではと懸念される。

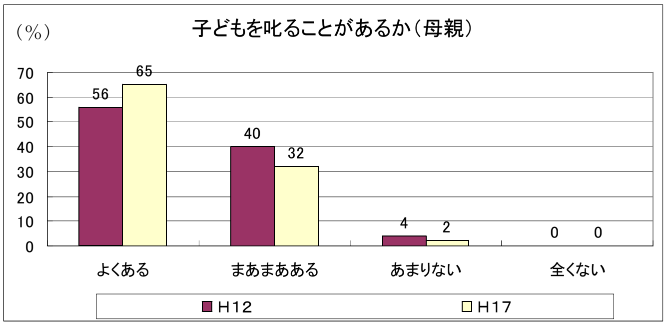
○子どもの年齢別や男女、保育園･幼稚園での比較において母親には差がみられないものの、３歳児で「よくある」父親が５０％、５歳児で４１％と９ポイントの開きがある。 さらに保育園児の父親は４９％で、幼稚園児の方の４２％と７ポイントの差が出ている。これらの差は、マナーに関する意識の高さの違いというよりも、５歳児よりも３歳児の方がさわぎやすいことと、幼稚園児より保育園児を持つ父親の方が、母親が忙しい中で子どもの問題行動を目の当たりにする実感が強いことによるものではないかと推測される。

◎「よくある」と答えた父親が３６％、母親が５６％であった前回に比べ、この５年間で父母ともに「しかる」割合は９ポイント上昇している。









（４） 男女を区別した子育てについて

あなたは、お子さんを『男の子だから』『女の子だから』といって注意したり叱ったりすることがありますか

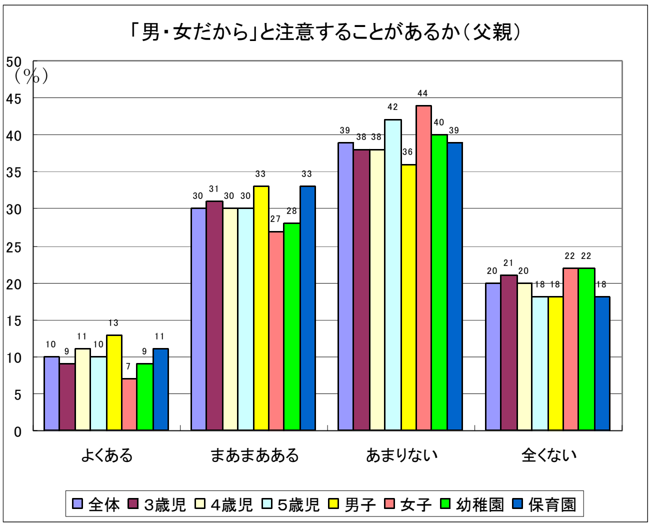
○「よくある」「まあまあある」と回答した父親は４０％、母親は３６％である。これらの割合は子どもの年齢別にみてもほとんど差はみられなかった。

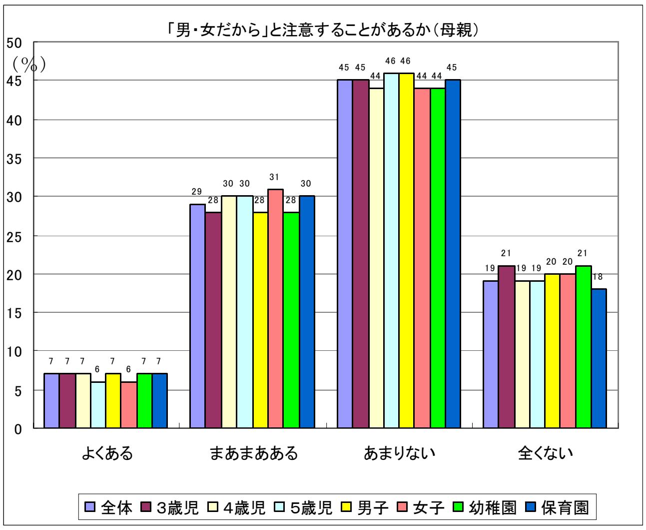
○「よくある」「まあまあある」と回答した割合を子どもの男女別で比べてみると、男子の父親では、４６％、女子の父親では３４％と１２ポイントの開きがあり、父親は同性の男子へより強い性役割の期待をもつことがうかがえる。

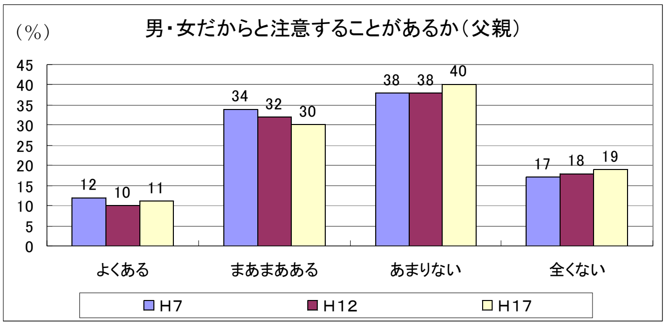
○「よくある」「まあまあある」と回答した割合を幼稚園、保育園別で比べてみると、保育園児の父親は、

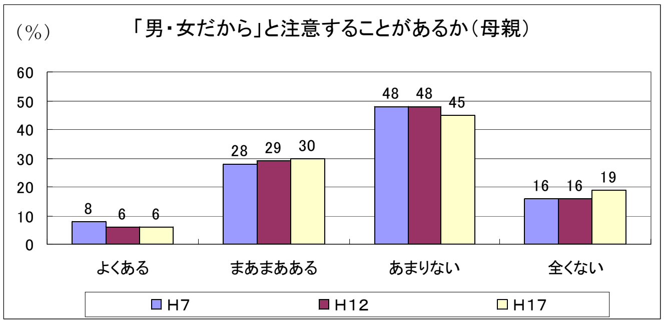
幼稚園児の父親よりも７ポイント高くなっている。これらは家庭において経済的な面での役割が母親と同等な立場にある父親が、あえて男性としての役割意識を自ら問う機会が多いためではないかと推測される。

◎４・５歳児のみのデータによる過年度との比較では、「よくある」「まあまあある」と回答した父親は平成７年度の４６％より、５ポイント下がっている。母親については、子どもの年齢、幼稚園･保育園、年度間のどれにも差がみられなかった。









2　子どもの受容

人は他者に受容されることによって、自信を持ち自己の成長を遂げていくことができる。
特に乳幼児は、愛情深い親の関わりに直接触れることで、安心して外の世界に向かうことができるものである。親が子どもをどのように受容しているのかを、「対話｣｢スキンシップ｣という２つの設問から考えてみる。

（１）　対話について

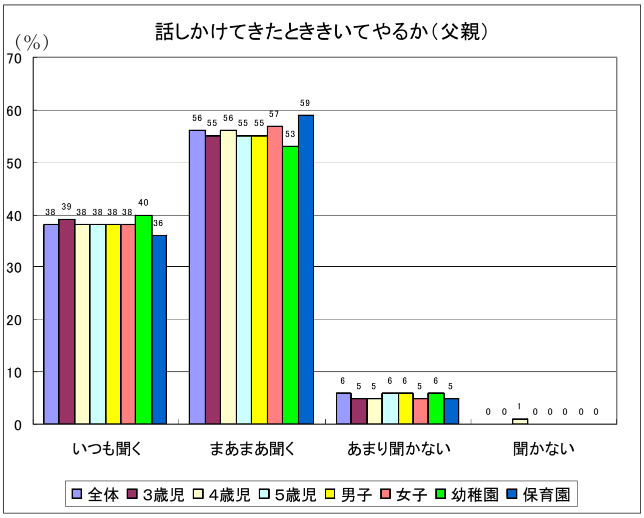
あなたは、子どもが『なに？どうして？』とたずねてきたり、話しかけたりしてきたとき、話をきいていますか？

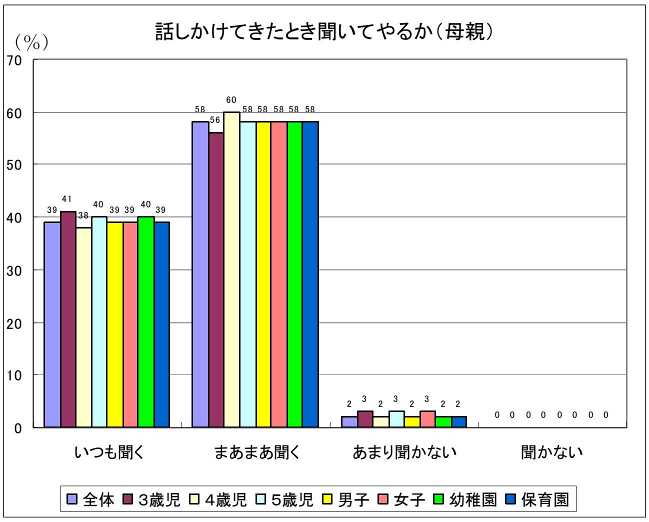
○｢いつも聞いている｣｢まあまあ聞いている」と回答したのは、父親が合わせて９４％、母親が９７％である。その中で「いつも聞く」は父親３８％、母親３９％、「まあまあ聞く」が父親５６％、母親５８％、さらに｢あまり聞かない」が父親６％、母親２％である。 それらの割合は、子どもの年齢、男女、幼稚園・保育園においてもほとんど差異はなく、大半の親は、子どもの年齢、男女、幼稚園・保育園を問わず、ある程度子どもからの話かけに耳を傾けているようである。

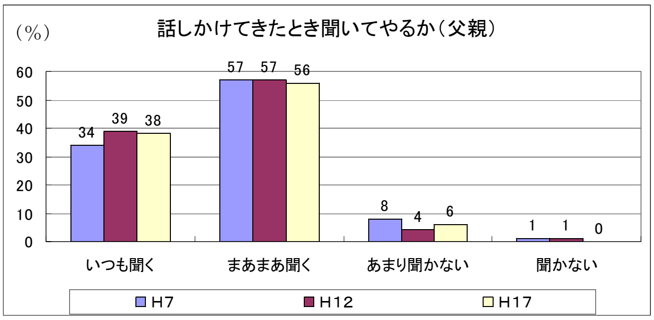
○過半数を占める「まあまあ聞く」がどの程度の頻度で、どのような聞き方をしているかは、個々の人の判断に委ねられており、その点には留意すべきであろう。

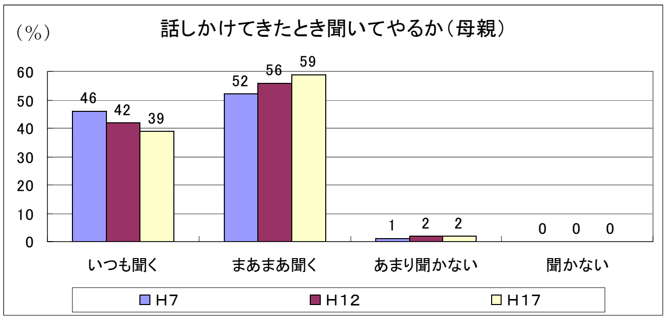
◎４・５歳児データでの過年度との比較では、「いつも聞く」母親が平成７年度４６％、１２年度４２％、今回３９％と減少していることがわかり、じっくりと子どもに向かい会う母親が近年少なくなっているのではと懸念される。

◎子どもの主体性を引き出していくような対話がなされているかもう一度考えていく必要があろう。



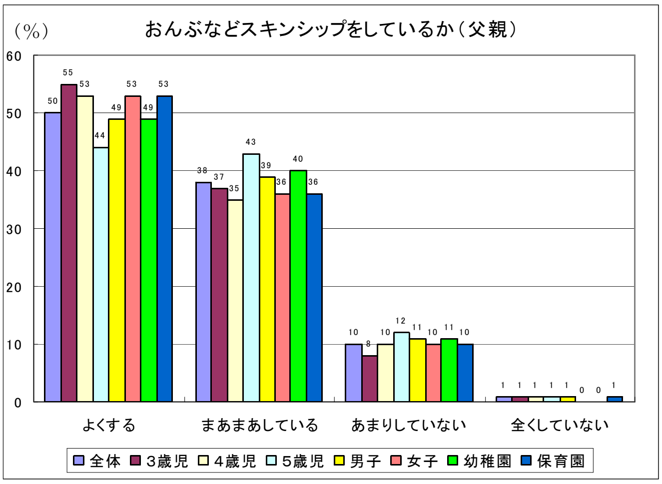


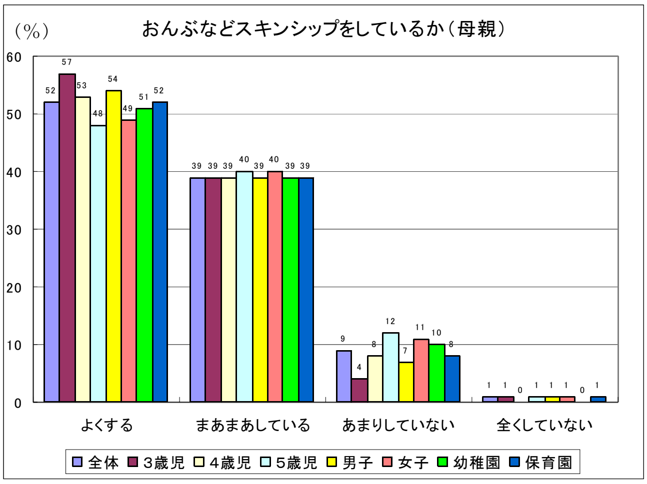




（２） スキンシップについて

あなたは、お子さんとおんぶやだっこでスキンシップをしていますか





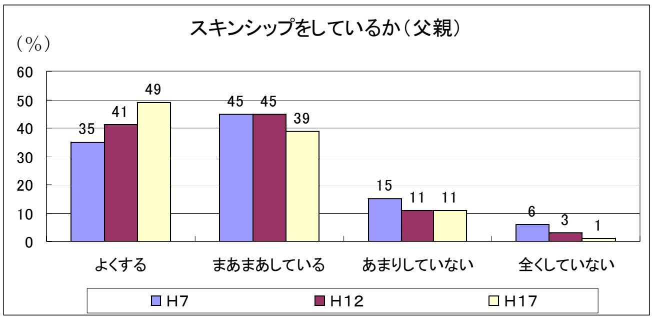
○「よくする」「まあまあしている」と回答した父親は８８％、母親が９１％である。子どもの年齢別にみると、幼い３歳児が父母ともに最も高い割合を示しているのは自然なことであろう。

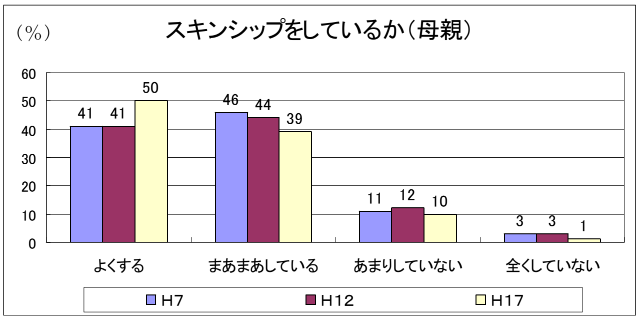
○男女別、幼稚園・保育園による差異はほとんどみられない。

◎４・５歳児のみの過年度との比較をみると、父親は平成７年度８０％、１２年度８６％、今回８８％と増加している。中でも「よくしている」は、１０年前の３５％から、今回４９％へと、１４ポイントのめざましい伸びである。

◎母親の方も「よくする」は１０年間で９ポイント増加し、今回５０％である。

◎父と母の間で１０年前には６ポイントの開きがあったのに対して、今回は１ポイントと、その差が縮まっているところが興味深い。核家族化・少子化の中でスキンシップを大切にしている親の姿がみえるが、このスキンシップという親子の交流を家庭外の世界へと拡充していくことが求められよう。





３　「親子の交流」に関するまとめ

人はどの動物よりも、ゆっくりと長い年月をかけて大人になっていく。その間に、社会化を促し、自立に必要な学びを支えるのは、様々な人との出会いであり、そこに形成される多様で重層的な人間関係である。

人生の初期において最も重要な人間関係は、なんといってもまずは乳児期の養育者への愛着の成立である。続く幼児期では果敢に外界へ挑戦し、自己を発揮する経験を蓄えながら成長していくのであるが、それを支えるのは、やはり身近に信頼できる大人の安全基地である。このように信頼される人間関係は、日頃の愛情深い触れ合いの中で形成されるものであり、家庭においては親子の交流がその基本となる。

そのことについて、「子どもの認知」と「受容」という２つの側面から考察する。

（１）「子どもの認知」からいえること

○認知面として、仲のよい友だちを知っていることも、ほめることも母親の方が父親を上回っている。

◎父親は１０年前に比べると、どちらも割合が増加しており、父親なりに子どもへの関心と肯定的な関わりが高まっている。それには間接的に、子どもの交友関係や望ましい行為が父母の間で話題となっていることも考えられる。

○このような子育てを軸とした親子間、夫婦間の三点交流が、家庭内の受容的な雰囲気を醸成することにもつながるであろう。

（２）「子どもの受容」からいえること

○受容に関する問いでは、父母共に９割以上が子どもからの話しかけに応じたり、スキンシップをしていると答えている。しかし、その程度には個人差があることであり、日常の忙しさの中では、求めてくる子どもに「ちょっと待ってて」と言わざるをえないときもあるであろう。その分できるときには、しっかりと向き合い、温かな親子の交流を質的に深めていきたいものである。

Ⅳ　養育意識

1．養育の目標と家庭外の教育

子どもを育てる上で留意していること、学ばせたいことの背景には、「このような子どもに育ってほしい」という親の期待像が描かれている。

それらの養育上の目標に対する意識、そして家庭外の教育を、「育てる上での重点」「習い事」の２つの設問から考える。

（1）育てる上での重点について

あなたが、お子さんを育てる上で、今、最も気を配っていることは、次のうちのどれですか

○父母共に最も多かったのは、「思いやり」（父親３２％、母親３９％）、次に「生活習慣」、３番目に「自主性」である。その他の「友達関係」「積極性」「忍耐力」は５％から８％ではとんど差はみられない。

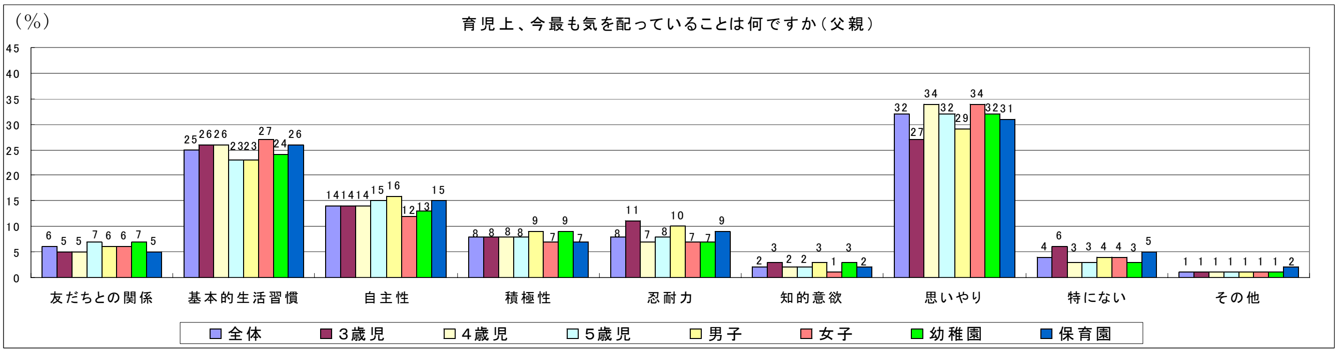
○約４割の親が習い事に通わせている現状の中で「知的意欲」は父親２％、母親１％と最も回答の割合は低い。特に１位の「思いやり」と２位の「生活習慣」との差は、父親で７ポイント、母親は１１ポイントと大きく開いている。これらの傾向は平成１２年度の調査結果でも同じである。

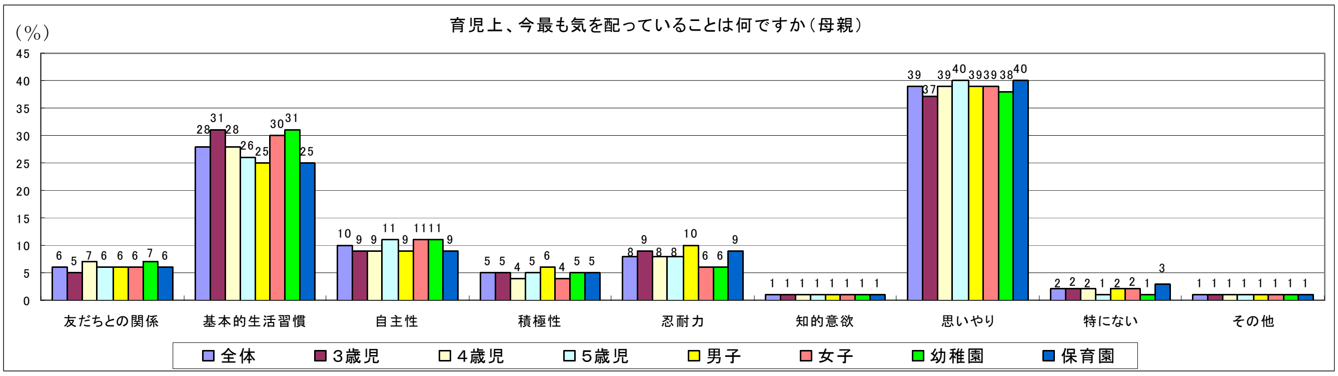
◎４,５歳のみのデータをみると、今回の調査では、３・４・５歳を合わせたものと順位は変わっていないが、平成７年度は父親の１位が「生活習慣」、２位「自主性」、３位「思いやり」であった。母親は、「生活習慣」と「思いやり」が２９％で同率１位、３位が１６％の「自主性」であった。

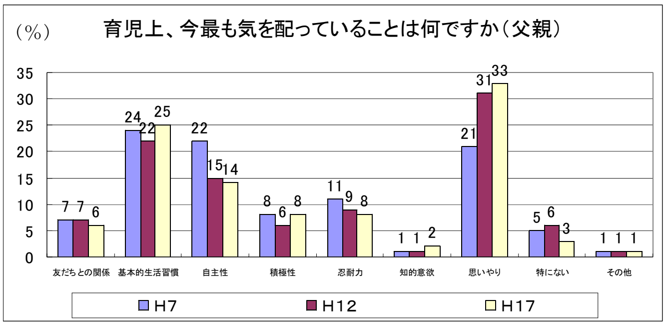
◎この結果が示す１０年間の変化は、複雑な現代社会において、父親も含め多くの大人が人間関係に戸惑っていることの裏返しと考えられるかもしれない。

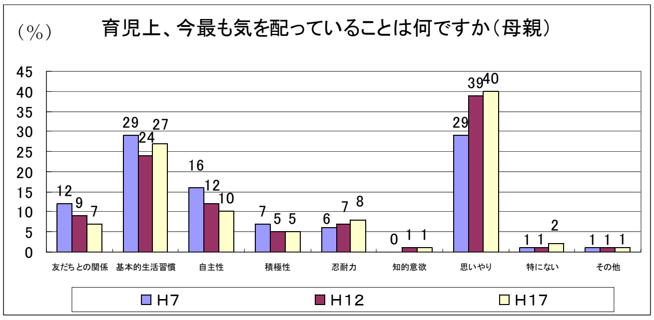
◎「生活習慣」の順位が下がっているのは、基本的生活習慣の確立が幼児期の重要な発達課題であるにもかかわらず、家庭におけるその取り組みが年々おろそかになっているという保育現場からの印象を裏付けているように思われる。

◎子どもの人間関係づくり能力の育成と共に、肝心な時に支えとなる親の人間関係を多面的に育んでいける取り組みが求められよう。









（２） 習い事について

お子さんは習い事に行っていますか

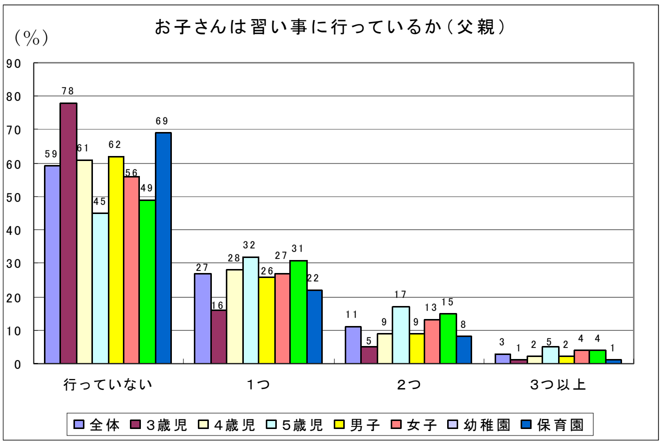
○子どもの行っている習い事の数の割合は、全体的に父母共にほぼ同じである。

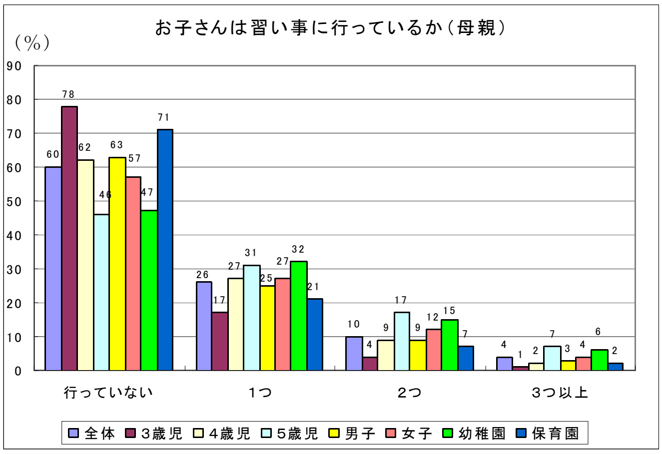
○母親のデータで子どもの年齢別に見ると、「行っていない」が３歳児で７８％であったのが、５歳児で４６％になり、年長児の過半数が何らかの習い事をしていることになる。

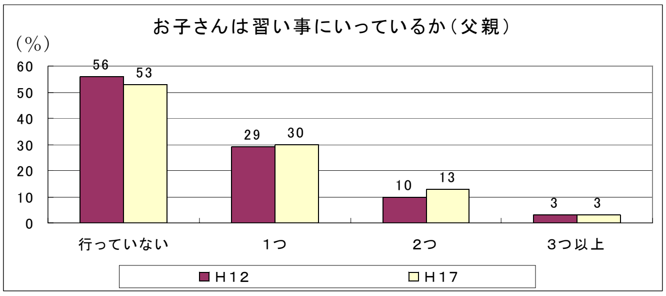
○習い事の数を５歳児でみると「１つ」が３１％、「２つ」が１７％である。また「３つ以上」が７％あり、この場合は一日１つとしても、週の半分は習い事に行っていることになる。

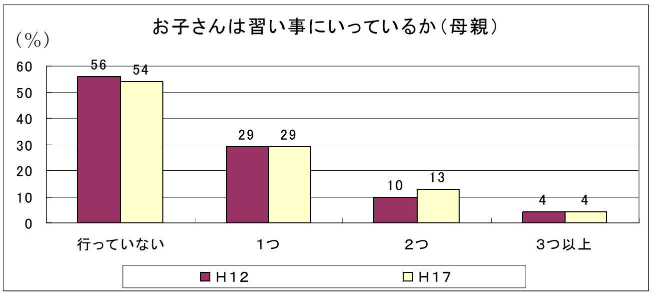
○男女別では、少なくとも１つ以上習い事をしている男子が３７％(「１つ」「２つ」「３つ以上」の合計した値）で、４３％の女子の方が若干多い。これは外で元気に遊ぶことと、ピアノなどの技能を身につけることへの期待が男女で多少違っていることによるのではないかと考えられる。

○幼稚園児で習い事に行っているのは５３％、保育園児が３０％である。この２０ポイント以上の開きが意味するところは、働いている親にとって、習い事への送迎時間を確保することの難しさをを示しており、習い事への関心が薄いというものではないであろう。ちなみに近年保育園でも、保育時間内に英会話やスイミングの教室を開設しているところの人気が高いようである。









2　自己評価

「子育ては親育て」とよく言われるが、思い通りにならない子どもを前にして、親は日々自分の子育てを振り返ることになる。その試行錯誤の中で、親も子も成長の軌跡を踏んでいくものであろう。親として子育てに関わる自分のあり方をどのように意識しているのか、「しつけの自信」「しつけの甘さ」の２つの設問から考える。

（１） しつけの自信について

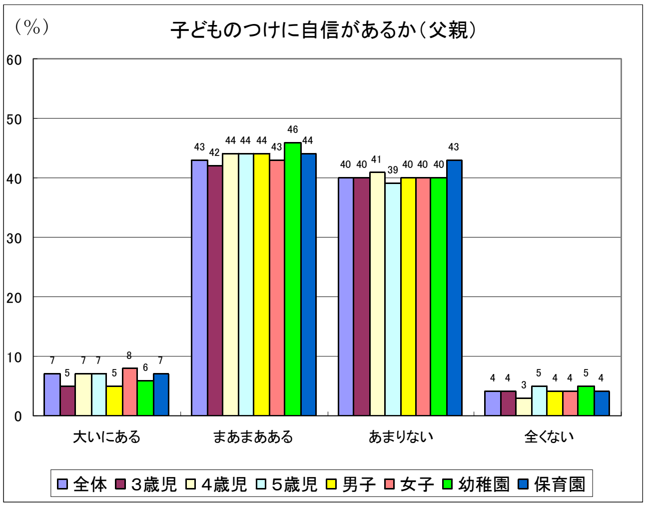
あなたは、お子さんのしつけに自信がありますか

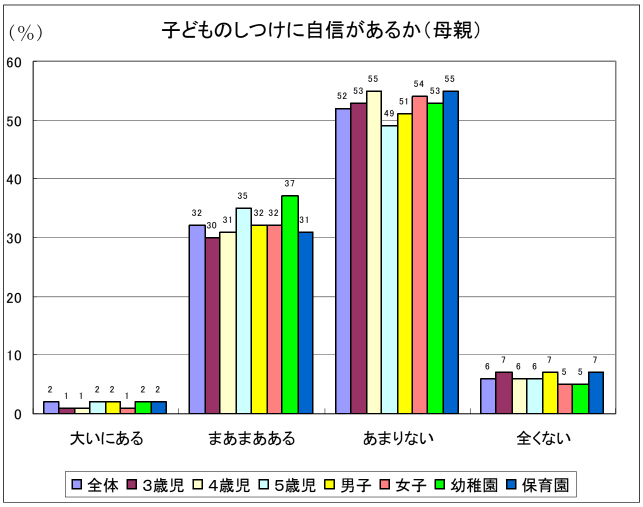
○しつけに自信のある（「大いにある」「まあまあある」を合わせた）と回答した父親は約５０％、母親はそれより１６ポイント下がって３４％である。

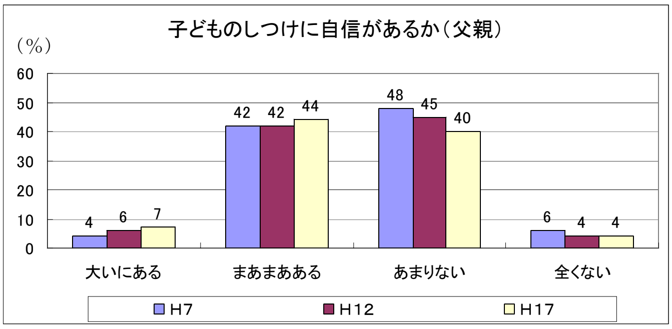
○子どもの年齢、男女、幼稚園･保育園による比較では、父親には差がみられない。母親は３・４歳児よりも５歳児は５ポイント高くなり、子育ての経験年数が多少なりとも自信につながっていると思われる。

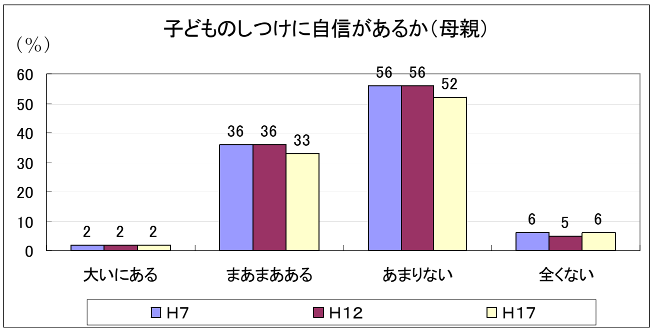
○保育園児の母親は、幼稚園児の母親よりも６ポイント低い値である。本来、幼児期のしつけはかなりの根気と時間を要するものであり、仕事をしながら、そこに十分関われないという引け目や現実的な悩みが、母親の自己評価にも影響していると思われる。

◎４・５歳児のみの過年度との比較によると、しつけに自信のある（「大いにある」「まあまあある」を合わせた）父親が、平成７年度は４６％であったのに対し、今回の調査では５１％に増加している。この増加が意味するところは、父親の育児参加が徐々に高まる中で、直接的に関わる養育の事柄が増えてきた分だけ、父親の自己評価も高まっているということかもしれない。







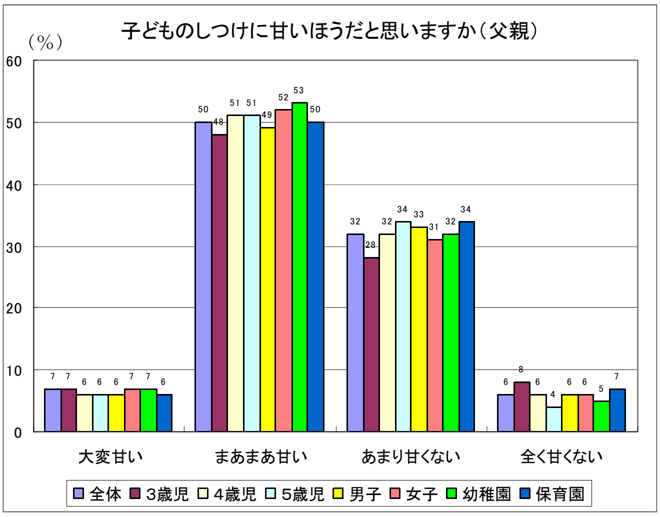


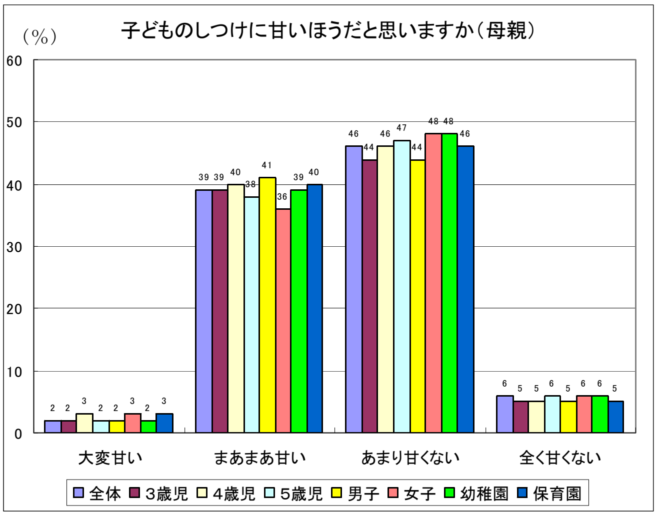
（2） しつけの甘さについて

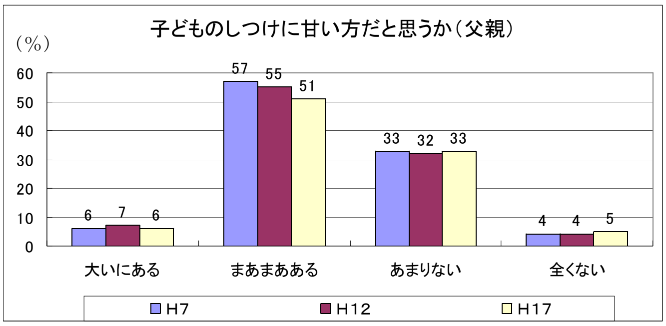
あなたは、お子さんのしつけに甘い方ですか

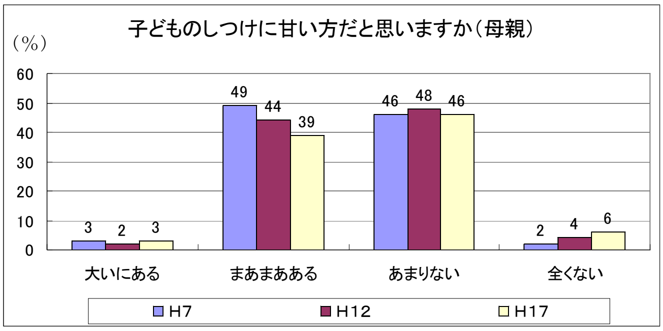
○「大変甘い方だと思う」「まあまあ甘い方だと思う」と回答した父親は５７％、母親は４１％であり、過半数の父親が子どもに甘いと自覚している。

◎４・５歳児のみのデータによる過年度との比較では、１０年間でしつけに甘い父親は６ポイント減少し、さらに母親では１０ポイント減少している。









3　養育の悩みや課題

わが子の成長に見合った働きかけや環境を整えることは、養育上とても大切なことである。しかし多様な情報や価値観とともにめまぐるしく変化する現代社会のなかで、それがどのようなものであるかを見極め、実際に取り組むことには、かなりの負担やストレスが伴うであろう。

また、期待する子ども像と目の前の子どもの姿が一致しない場合や、親自身にその年代の発達課題が重くのしかかっているときには、それらが子育ての悩みを、よりいっそう浮き立たせることになるであろう。

さらにここ数年、子どもをめぐる犯罪が多発し、安心して子育てできない環境や子どもの心の成長にも不安を抱く親は少なくない。また、こういった悩みなどに対してどうすればいいのであろうか。

養育上の悩みや課題の実態について、**「子育ての楽しさ」「子育ての孤立感」「イライラする気持ち」「子どもに関する悩み」「子育てに関する悩み」「悩みの解決法」「望んでいる子育て支援」**の７つの設問から考えてみる。

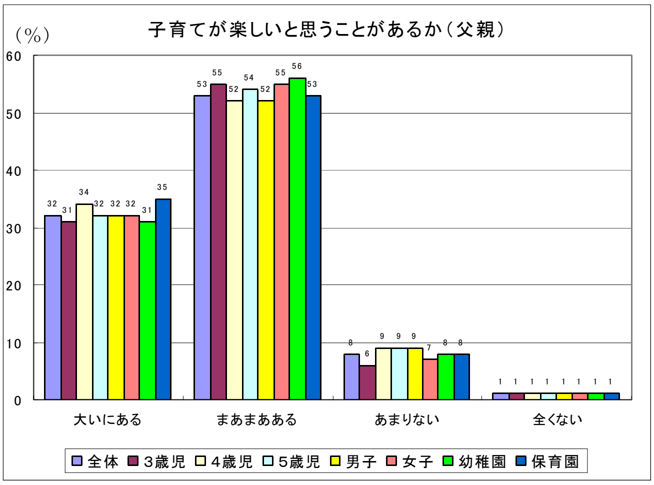
（１） 子育ての楽しさについて

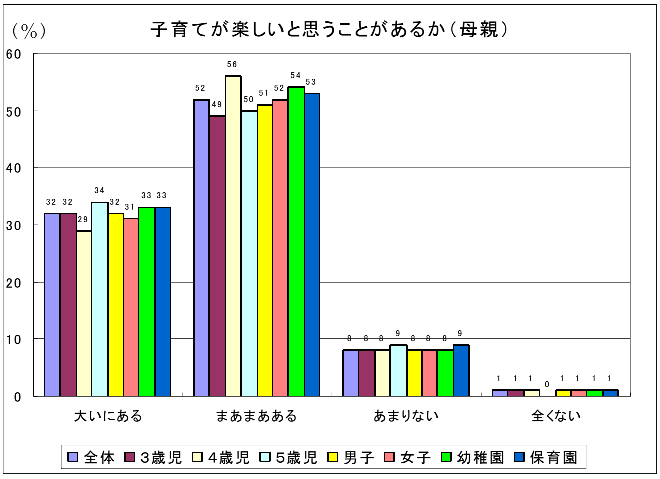
あなたは、子育てが楽しいと思うことがありますか

○｢大いにある｣｢まあまあある｣と回答した父親は８５％、 母親が８４％、また「大いにある｣が父母ともに３２％でほぼ同等である。これらの割合は子どもの男女別や、幼稚園･保育園間でもほとんど変わらない。

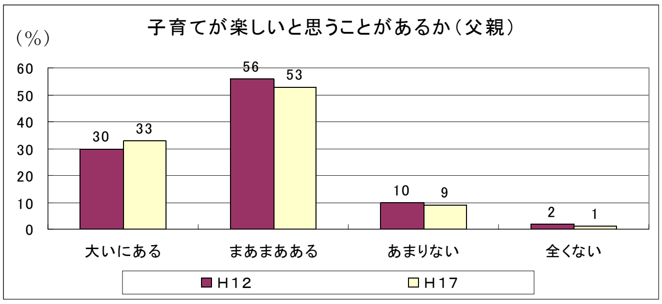
○子どもの年齢でみると４歳児に比べて、５歳児の母親は「大いにある｣の回答者が５ポイント高くなっている。この背景として、年長児になると直接手をかけ時間をとられる養育上の負担が減少し、そのことが子育てを楽しむ母親の精神的なゆとりにもつながっていると推測される。

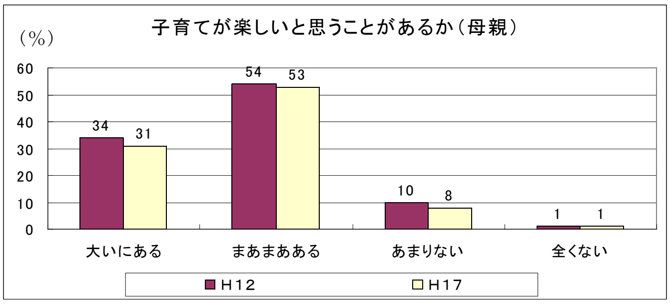
●調査から「イライラしたり」｢孤立していたり」という事項との関連性が示されており、楽しくするための取り組みが求められる。｢楽しくない」と意識している親への留意が必要である。





◎前回調査と今回調査の比較では、大きな変化はみれらなかった。





（２） 子育ての孤立感について

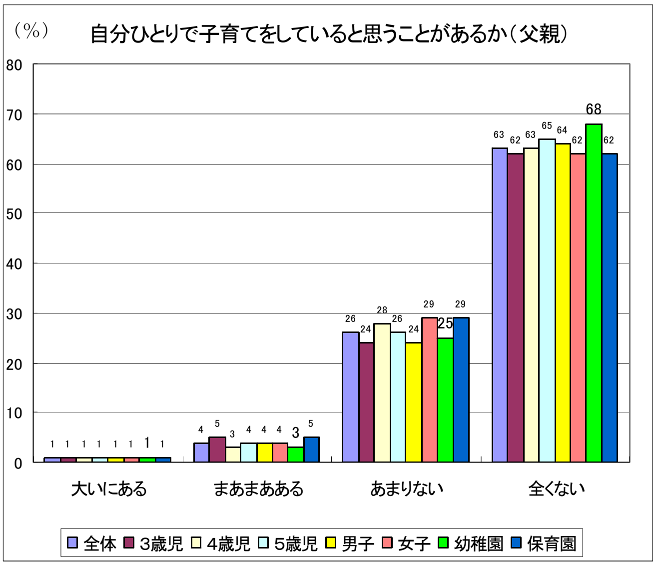
あなたは、自分ひとりで子育てをしていると思うことがありますか

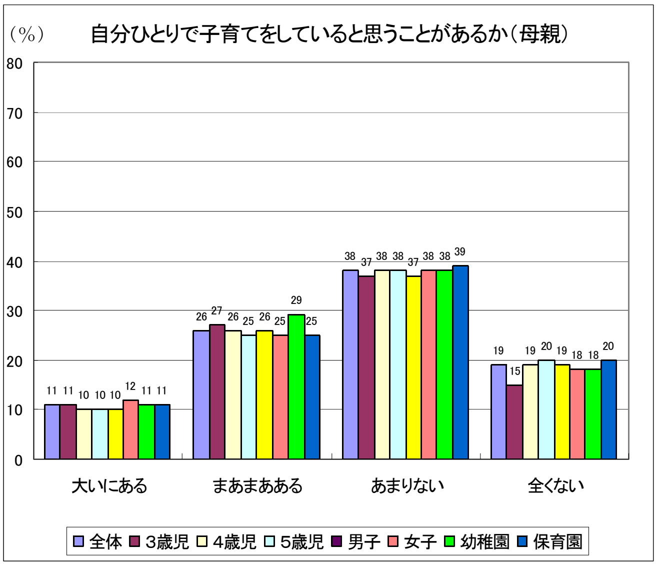
○「大いにある」「まあまあある」と回答した父親は５％、母親は３７％である。この３２ポイントの開きが示すように、父親の育児参加が進展してきたとはいえ、まだまだ母親の方にその負担が偏っているのが現状であろう。

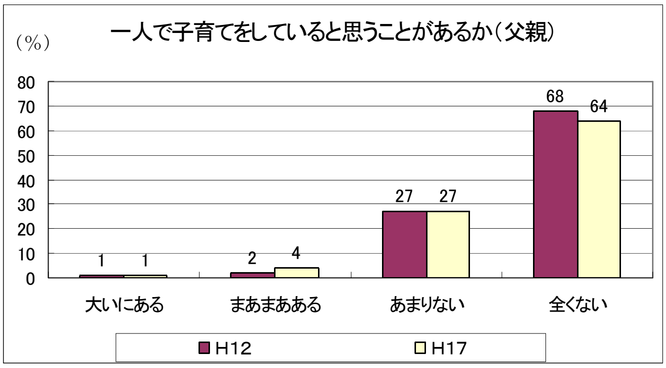
○これらの割合は、父母ともに子どもの年齢や男女別、幼稚園･保育園による比較においても大きな違いはみられない。

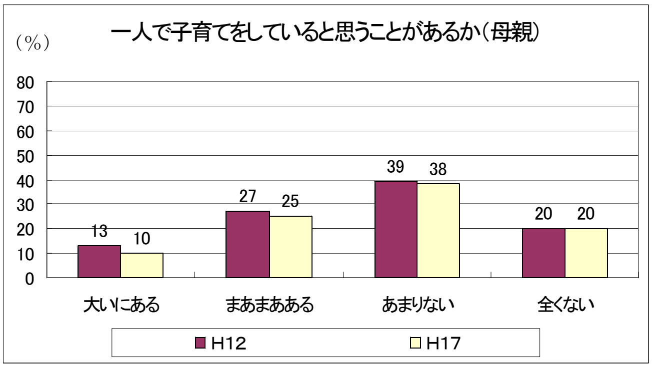
◎平成１２年度の調査と比較すると、「大いにある」と「まあまあある」を合わせた割合は、１２年度は父親３％、母親４０％であり、父母間での差がこの５年間で多少なりとも縮まっている。一方、逆の視点から、ひとりで子育てしていると思うことが「あまりない」「全くない」という回答をみてみると、１２年度より今回の調査で父親に６ポイントの減少がみられた。この減少した分のポイントは、「まあまあある」と無回答に振り分けられている。

◎子育てを共にする相手がしっかりいると意識する父親の数は、平成１２年度より減少し、協力を得がたいときがあると意識する父親もわずかながらも存在しているということである。









（3） イライラ感について

あなたは、子育てにおいてイライラしたりして、お子さんをたたいたりしたいと思うことがどの程度ありますか

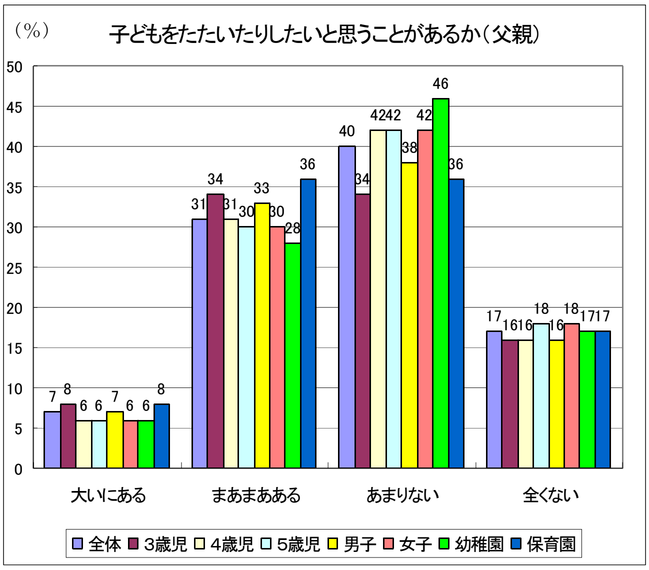
○「よくある」「まあまあある」という父親は３８％、母親は５２％で半数以上にのぼる。その中で「よくある」という母親は１１％、すなわち１割以上の母親が、虐待にもつながるようなイライラ感に度々襲われていることになる。

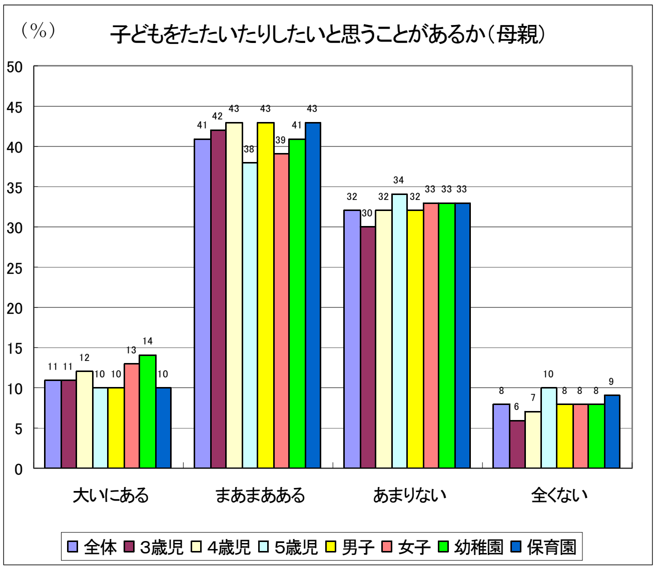
○子どもの年齢をみると３歳児の父親は４歳児より５ポイント、５歳児より６ポイント高い。

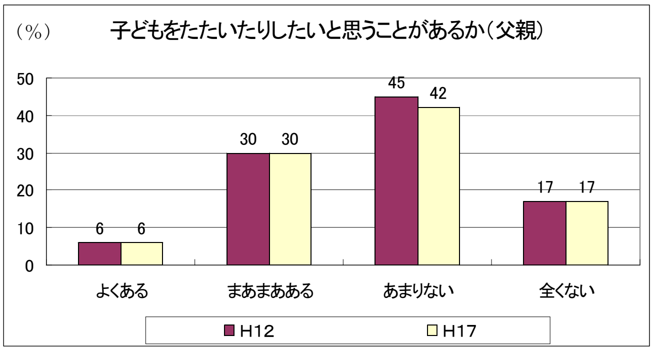
○母親では３歳児が５歳児より５ポイント高くなっている。これはやはり、３歳児がたくさんの手助けを必要としながらも、活発な自己主張をくりひろげるために、しつける側の親もその対処に精神的なエネルギーを消耗しやすいということかもしれない。

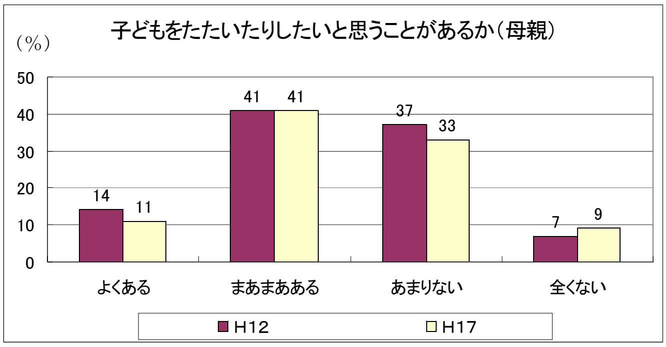
○興味深いのは、「よくある」「まあまあある」と答えた保育園児の父親は、幼稚園児の父親より１０ポイント高いことである。共働きで母親と育児を分担する割合が高い父親は、その直接的な関わり合いの中で、目の前の子どもが思うようにならず、母親と同様にイライラ感を募らせることになっているのであろう。

◎平成１２年度と今回の結果には大きな違いは見られなかった。このイライラ意識への解決策を講じることは重要である。









（4） 子どもに関する不安や悩みについて

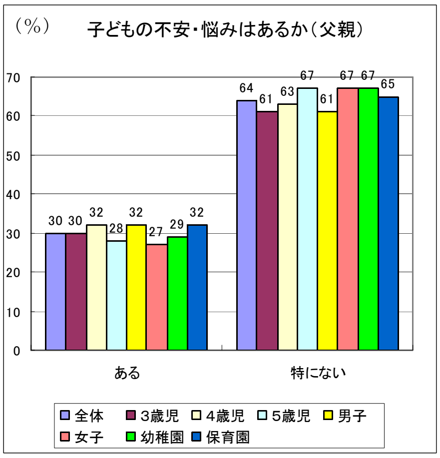
子どものことで不安に思ったり悩んだりしていることはありますか

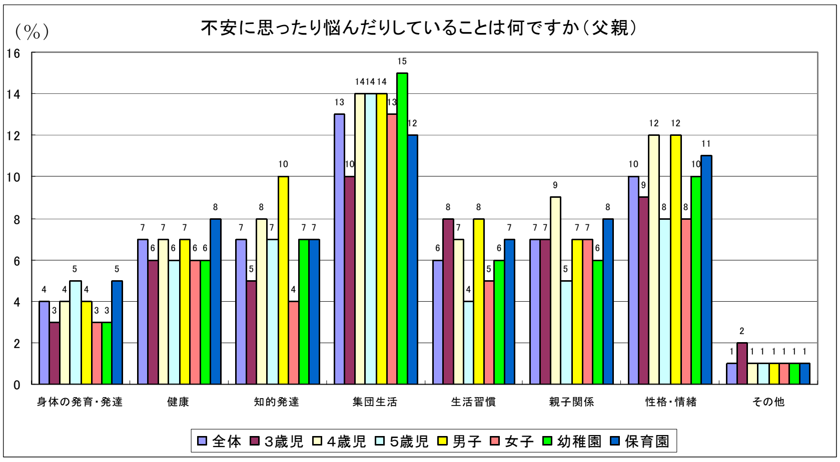
○悩みが「ある」という回答は、父親の３０％に対して、母親が４２％と１２ポイント高くなっている。その中で父親が選択した項目は、１番に「集団生活」、次に「性格・情緒」、３番目に「知的発達」・「親子関係」であった。母親では、１番に「集団生活」、２番目に同率で「親子関係」・「性格・情緒」が並ぶ。

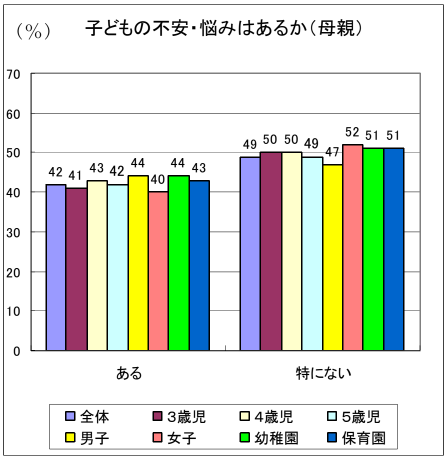
○年齢別に見ると、３歳児の父親は、「集団生活」１０％、「親子関係」が７％、「性格・情緒」が９％、「生活習慣」８％、「健康」６％と上位５つの項目間にほとんど差が見られない。母親では、「性格情緒」１６％、「親子関係」１６％、「生活習慣」１３％、「集団生活」１２％と、上位４項目が同じく密接した割合であるものの、集団生活は４位である。それに対して５歳児の父親では他の項目と６ポイント以上の差をつけて「集団生活」が１位を占めている。母親も項目間のポイントの開きは少ないものの、やはり「集団生活」が一番多く選ばれている。これらの結果には、年長児をもつ親の就学前という意識がうかがえよう。

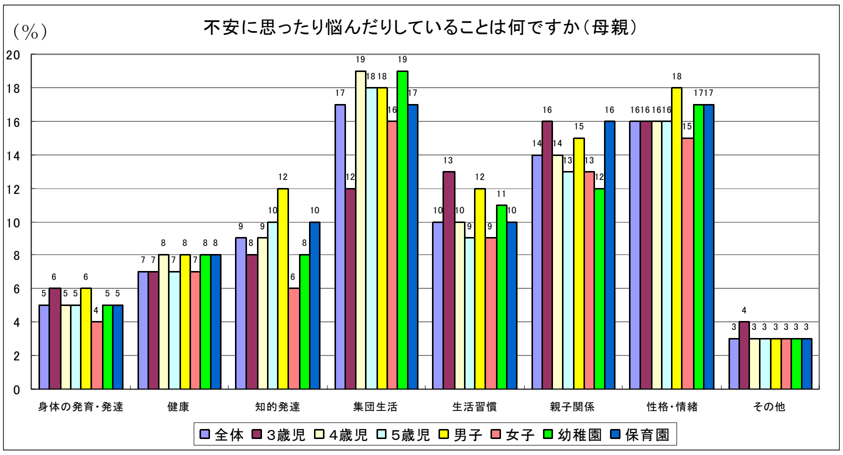
○男女別では、「知的発達」に関しては父母共に、女子より男子の方が６ポイント高く、性役割としての期待の違いがこの差に現れていると思われる。今年度は複数回答が可能であったが、選択する項目数では男子の母親が最も多かった。

◎平成７年度、１２年度とは、質問形式が異なる（「特になし」を含めて一つの項目のみを選択）ために直接的な比較はできないが、「特になし」以外で最も高い項目が「集団生活」であることは各年度とも共通している。









（５） 育児に関する悩みについて

養育・育児のことで不安や悩みはありますか

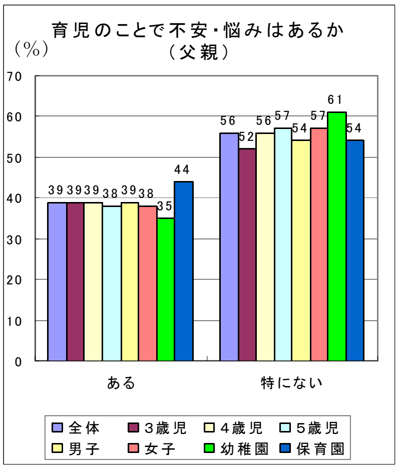
○今年度新たに加わった設問である。「養育・育児のことで不安や悩みがある」という回答は、父親３９％に対して、母親は５４％と過半数を超えている。

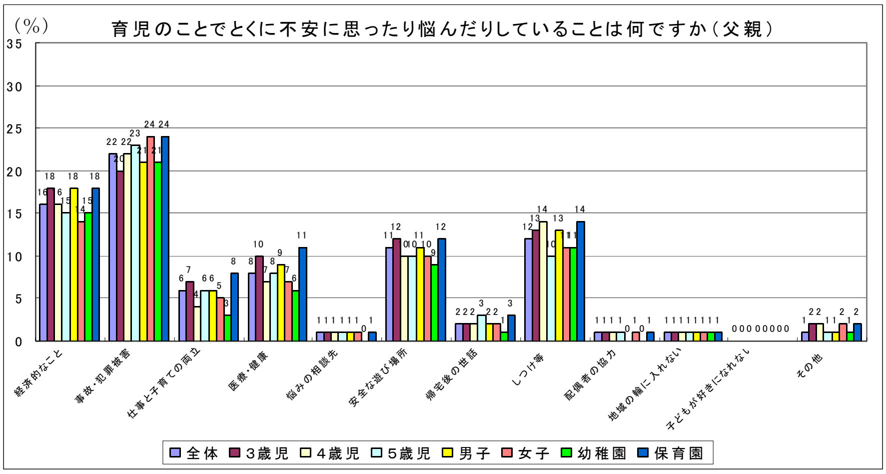
○具体的な不安や悩みとして最も割合が高いのは、父母共に「事故・犯罪被害」である。このように子どもをめぐる犯罪や事故が立て続けに起きている現代社会にあっては、幼児を持つ親が最も心配し、不安に駆り立てられる選択項目に事故や犯罪被害をあげるのも当然といえるだろう。

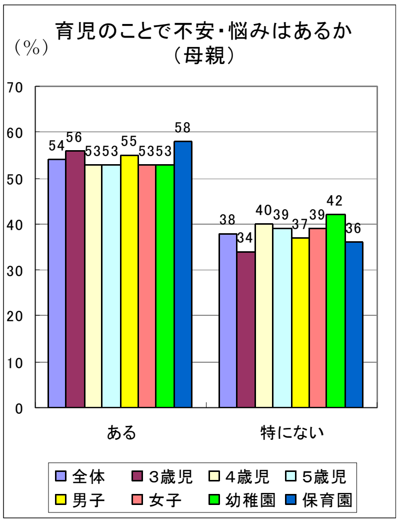
○他に１０％を超えるものは、父親の場合、「経済的なこと」１６％、「しつけ」１２％、「安全な遊び場所」１１％である。母親では、「経済的なこと」と「しつけ」が２３％、「安全な遊び場」１７％、「仕事の両立」１６％、「医療・健康」１２％である。

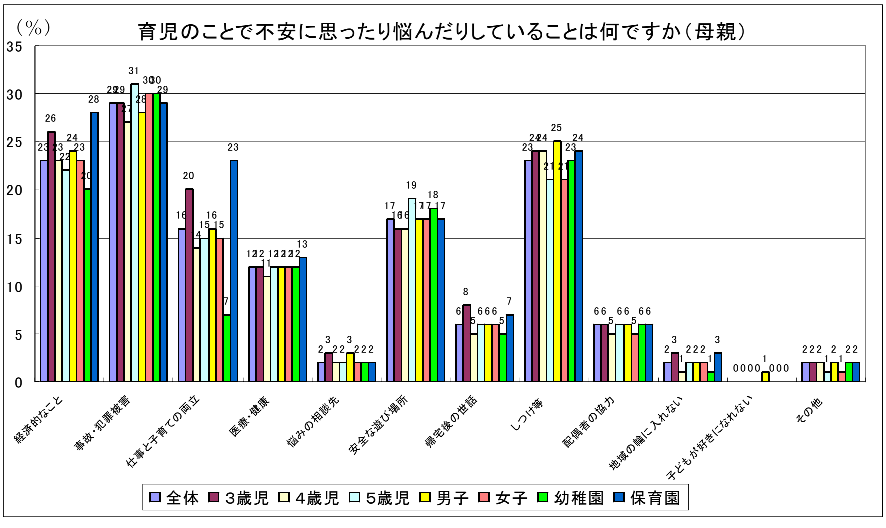
○これらの順位は、父親の場合、子どもの年齢や男女、幼稚園・保育園によっても変わらない。
一方母親も年齢や男女については、２位と３位で順位の入れ替わりがあるものの数値的にはほとんど差はみられない。

○幼稚園・保育園での比較では、保育園児の母親の方が、２位以下の順位の入れ替わりとともに、「経済的なこと」で８ポイント、「仕事と子育ての両立」で１６ポイントとそれぞれ幼稚園児の母親より大きく上回っている。やはり働く母親にとって、「仕事と子育ての両立」が避けては通れない大きな課題となっているのであろう。









（6） 悩みの解決法について

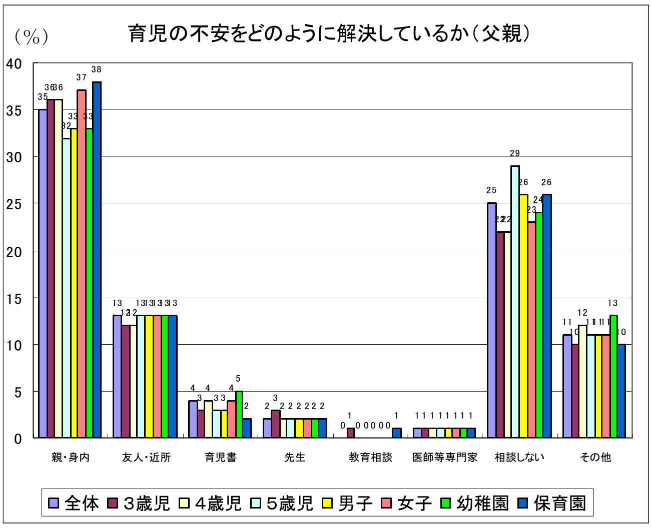
育児の不安をどのように解決していますか

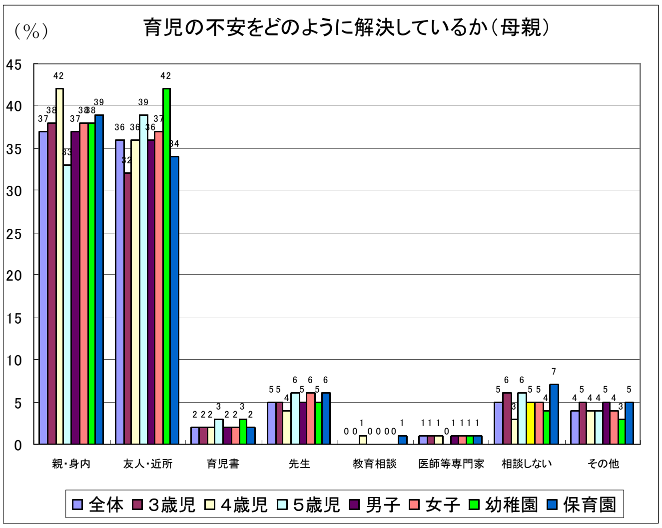
○育児で困ったり不安に感じたことを解決する方法として、父親で最も多いのが「親などの身内」３５％、２番目に「相談しない」２５％である。

○母親は一番が同じく「身内」の３７％であるものの、わずか１ポイント下がるだけで「友人・近所」が２番めに続いている点が父親とは対照的である。さらにこの1,2番の項目だけで、全体の７３％を占めていることも特長的であるといえよう。

○このように父母ともに身内を一番の相談相手に位置づけているが、それ以外は自分の判断で解決しようとする父親に対して、母親は身内以外でも子育ての悩みを友だちや近所づきあいの中で、気負いなく話したり、励まされたりという関係をつくりやすいものと思われる。

○父親の1,2番の順位は子どもの年齢や男女別で見てもほとんど変わらない。しかし母親の方は 5 歳児で１位と２位が入れ替わっている。



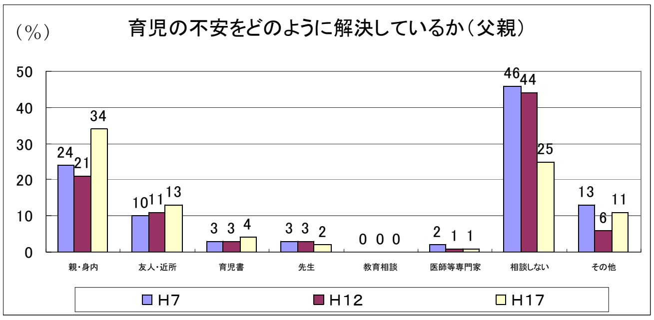


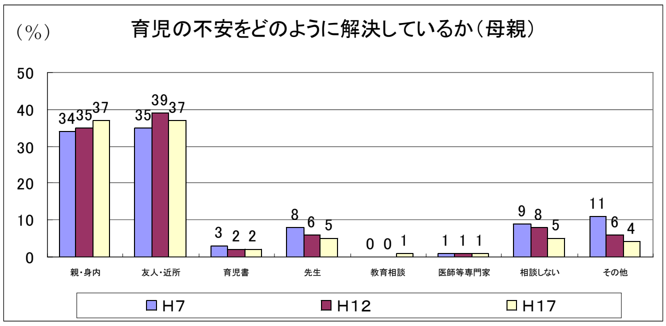
○保育園児の母親は 1 位の「身内」３９％で、２位の「友人・近所」より５ポイント上回っているのに対して、幼稚園児の母親では、「身内」が３８％で、割合的には保育園児の母親とあまり変わらないものの、その順位が逆転し、「友人・近所」の４２％が１番高くなっている。幼稚園に子どもを通わせる親達の中には、親同士の交流に気を使い、負担に感じている人も少なくないようであるが、上述の結果からは通園年数とともに子育ての悩みを共通の話題として交流を深めている親達の存在もあることが考えられ、親同士の交流の子育てへの好影響の可能性が期待される。

◎過年度との比較では、4,5歳児のみのデータで、父親にこの１０年間での大きな変化がみられた。すなわち前々回に一番多かった解決法は、「相談しない」の４６％であり、その値は、今回の調査で１位となっている「身内」よりも２２ポイント上回っていた。しかしながら近年、父親への育児参加が社会的にも求められるなかで、子育ての悩みが父親にとってもより現実的なものとなり、「相談しない」と強がるわけにいかなくなったのかもしれない。

◎厳しい子育て状況の中で、誰にも相談できない親に対する焦点化された取り組みが今後は求められるが、

その際、教育、保健・医療、福祉などの分野が総合的に関わっていくことが必要であろう。



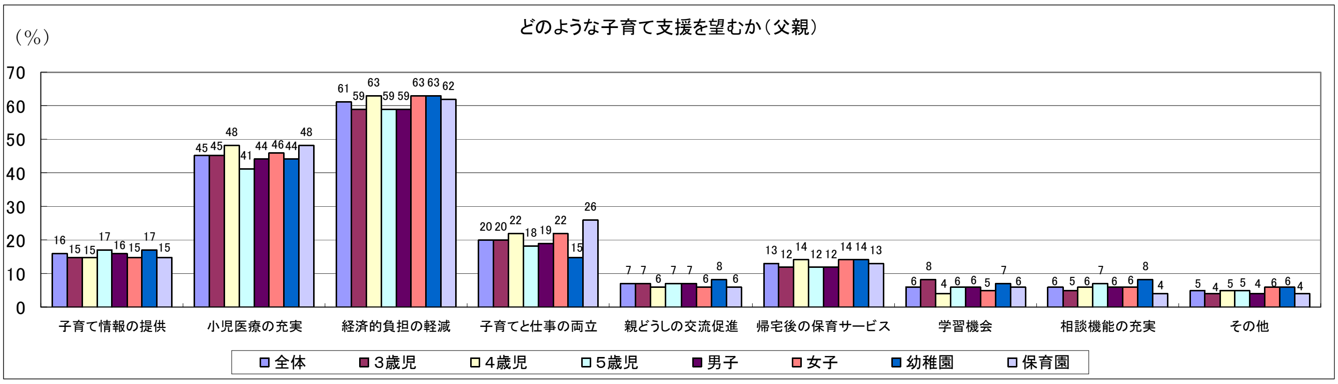


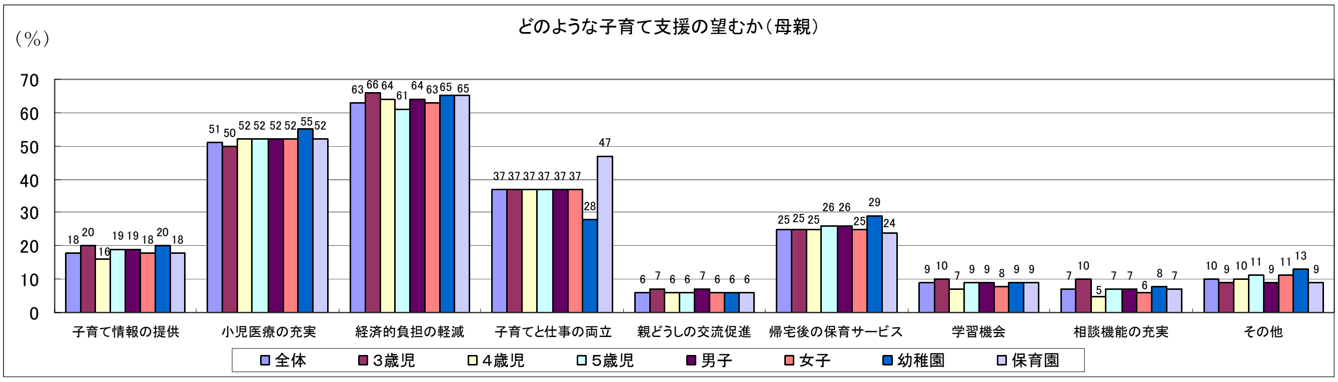
（7） 望んでいる子育て支援について

子育て支援として、どのような支援を望まれますか

○この問いも今回の調査で初めて取り入れたものである。 子育て支援として望んでいるものは、父母ともに「経済的負担の軽減」が一番で、それを選択した人が全体の６割以上を占めている。その後は「小児医療の充実」「仕事との両立の支援」が続いている。これら上位３つの項目は、どれも生活に密着した現実的な問題であり、福祉や少子化対策の課題として常に指摘されているところと一致する。

○子どもの年齢や男女別、幼稚園・保育園でもその順位はほとんど変わらない。選択した割合をみると、「子育てと仕事の両立」を選択した母親が幼稚園２８％に対して、保育園４７％と１９ポイントの大きな開きがある。また父親についてもその割合は幼稚園１５％、保育園２６％と後者の方が１１ポイント高い。この差は共働きの父親が、働きながら育児に直接関わることの大変さを、自分自身の問題として実感していることを示しているのであろう。一つの方策として子育て期の親に対する就労への配慮が企業との共同の中で求められる。





4.「親の養育意識」に関するまとめ

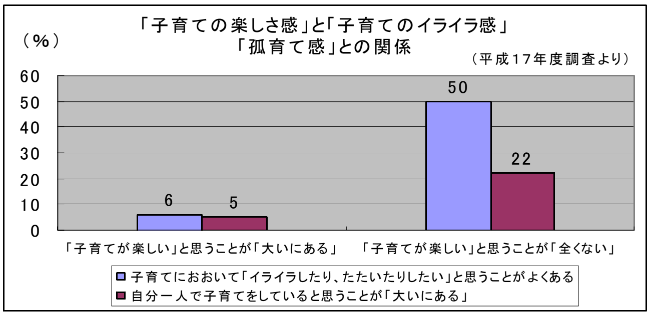
○子育ての楽しさについては、父母ともに８割を超えて「楽しい」という印象を持っている。

気になるのは「楽しめていない」という残りの１割である。ただでさえ子育ては、気力や活力、時間的にも経済的にも多大な労力を必要とする。その中での「楽しめない子育て」は苦痛であり、精神的なバランスを崩し易いので、虐待や親子の無理心中の防止のために、そういった親子の存在を念頭に入れた支援が必要とされる。

●「子育ての楽しさ」と「子育てにイライラ感」には関連性が見られた。【資料５】からわかるように、「イライラすることがよくある」割合は、「子育てが楽しいと思うことが大いにある」親では６％であったのに対し、「子育てが楽しいと思うことが全くない」親では、その割合が５０％と、激増している。

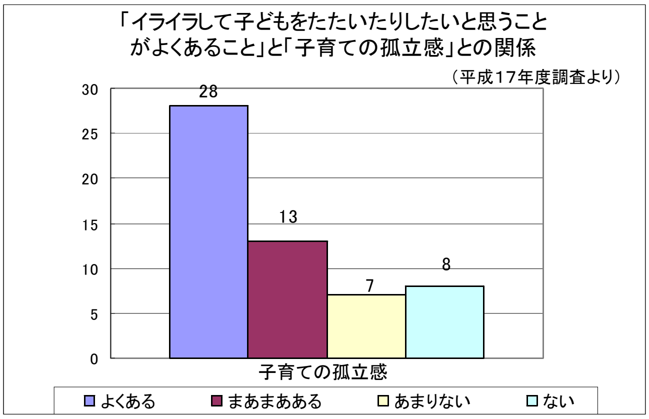
同様に「自分一人で子育てをしていると思うことが大いにある」と思っている割合は、「子育てが楽しいと思うことが大いにある」が５％であったのに対し、「子育てが楽しいと思うことが全くない」親では「自分一人で子育てをしていると思うことが大いにある」と回答した割合は２２％と、１７ポイントも高くなっている。

【資料 5】



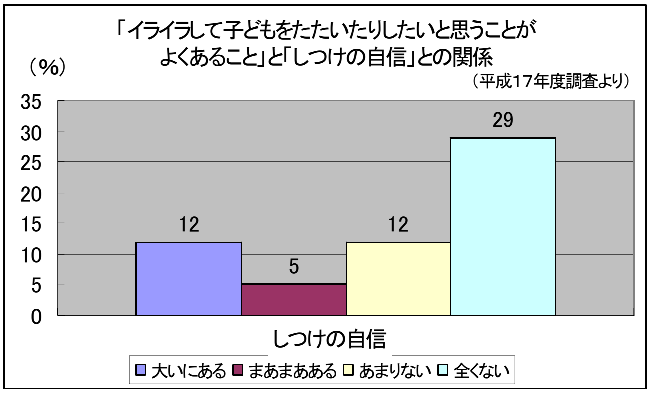
●【資料６】のように、子育ての孤立感が高いほど、子育てにイライラしたり、子どもをたたいたりしたいと思うことが多くなることがわかる。

【資料６】



●また、「子育てにイライラしたり、子どもをたたいたりしたいと思うことがよくある」親は、しつけの自信も低いことが【資料７】からわかる。

【資料７】



○子育ての楽しさには、様々な要因が絡んでいると思われるが、まずは目の前の子どもをありのままに認め、子どもが受け止められているという実感を伴うような触れ合いがその源になるであろう。そのように子どもを見る目や時間をいかにつくるかが、親子交流の要である。他の家族と交流したり、地域活動に参加することなどで親子関係が深まってくるのではないだろうか。

○育てる上で最も気を配っていることは、父母共に「思いやり」であり、この１０年間で「生活習慣」を抜いて１番多い。確かに思いやりは、肯定的な人間関係を結ぶ上で大切なものである。

○このようにトップに選ばれるようになった背景には、親のどのような心理が働いているのであろうか。これを検討するのには、この調査での別の質問項目が参考になるであろう。すなわち子どもに関する不安・悩みのなかで最も多いのが、「集団生活」であることと関連しているのではないだろうか。

複雑な社会の中に生きる大人にとっても、集団生活における人間関係の難しさは切実で、できるだけ摩擦が生じないような関わり方を選んでいることも少なくない。もし、その意識が強く働いているとすれ

ば、自己主張を控え、他者に合わせるだけの消極的なしつけが強まり、結果的に人間関係を深められない子どもを育てることになりはしないであろうか。

○このような心配をするのは、もともと日本の家庭教育において自己抑制の傾向が強いことと、そのための基準をもっていない現代の若者にいわゆる「指示待ち人間」が多いこと、また一見その対極にありそうな自己中心的で身勝手な振る舞いが目立つと言われていることを鑑みるからである。

本来、思いやりというのは、相手の立場に立ち、共感的に理解するということである。それは相手の中に一歩踏み込んで理解しようとする積極的な人間関係づくりであり、それだけに主体的な行為でもある。そのように思いやる力が育まれるためには、その基礎に子ども自身が思いやってもらう体験はもちろんのこと、お手伝いや習い事など日常生活の中で子どもの主体性が尊重されること、他者との触れ合いの中で多少の摩擦をおそれずに乗り越える強さ、そして基本的な生活習慣が確立される中で安定する情緒の豊かさも必要であろう。親が子どもに「思いやり」を求めるとき、これらの点をしっかり意識して育てることが重要である。

○養育の目標とともに、自己評価と養育の悩みは，相互に関連している。親子交流の設問で見られたように、今回、平成１７年度は具体的な子どもとの触れ合いが増加しており、父親の直接的な育児参加が前回の調査のときよりも増加していると思われる。

○そのように母親ばかりにお任せ状態でなくなったことから、しつけに関する父親の自信が高まると同時に、育児に関する悩みもより実感を伴った現実的な問題としてとらえられている。しかしながら、母親における「しつけの自信のなさ」というマイナスの自己評価と、「子育ての孤立感」や「イライラ感」が減少していないことを考えると、父親側からのさらなる積極的な協力体制と、親の養育意識や実態に即した公的支援の発展が期待されるところである。

○子育て意識や子どもとの関わりの実践が進んでいる中で、子育ての自信が深められず、甘いと感じている親に対して、情報提供や相談、そして各々の親が抱えている課題や活動を支えるための学習機会の提供のための総合的な環境整備が求められよう。

Ⅴ　変遷と総合分析・提案

１０年間の福岡県の幼児の親の家庭教育調査結果をもとに、幼児の親の家庭教育の変遷を、（１）養育態度、（２）親子交流、（３）養育意識の３点から概観し、次に総合的に検討し、調査結果に基づく提案を行う。

１．１０年間の親の家庭教育の変化

前々回平成７年、前回平成１２年、そして今回平成１７年の調査結果から、継続して共通に質問項目を設定しているものを中心に福岡県における家庭教育の変遷を概観し考察する。

（１）　養育態度

①基本的生活習慣

今回、初めて朝食の頻度を尋ねたが、約８割と大半の子どもが朝食を毎日食べてはいる。ただし、毎日食べていない約２割近い子どもの背景や今後の成長が心配であり、親への啓発や食育をどうしていくかが今後の課題とされよう。それと同時に、毎日食べていても食事の中身が問われる必要がある。食べていると言っても菓子パンであったり、コンビニエンスストアで買ったものを車の中で食べていたりということも見かけられる。

９時前に寝るべき幼児が、９時前に実際に寝ている幼児は４分の１に過ぎないのである。朝食が食べられない、自立起床ができないことと、就寝時間が遅いこととの関連が示されており、よりよい生活習慣として「早寝、早起き、朝ご飯」は幼児の発達の基礎となることがうかがわれる。

「テレビ視聴時間が２時間未満」の子どもでは、８９％の子どもが毎日朝食を食べるのに対し、「テレビ視聴時間が３時間以上」の子どもでは７１％と激減する。

就寝時間が遅い幼児はメディア接触時間が長いという傾向があり、食事の時にはテレビを消すとか、見ていないときにはスイッチを切るといった生活の中でのテレビとの意識的な関わりを持たせるような、メディアとのよりよい関係づくりのための取り組みが求められよう。

子どもに対する朝の起こし方は「声をかけた」は、ここ１０年間では母親は平成７年５３％、平成１２年５５％、平成１７年５６％と微増傾向であり、６割近くの母親が子どもに声をかけて起こしている。父親は平成７年３９％、平成１２年３５％、平成１７年４２％と微増傾向であり、４割近くの父親が子どもに声をかけて起こしている。父親が子どもが起きないときに放っておく割合は、平成７年２０％、平成１２年１４％、平成１７年９％と減少し、着実に無関心・放任の父親は傾向としては減少しつつあると言えよう。

自立起床している子どもの割合は変化なく、幼児とはいえ、子どもの自立性を育むことが求められる。

子どもへの洗顔・歯磨きのさせ方は「手伝ってさせた」は、ここ１０年間では母親は平成７年１５％、平成１２年２０％、平成１７年２３％と増加傾向であり、４分の１近くの母親が子どもを手伝ってさせている。父親も平成７年１３％、平成１２年２２％、平成１７年２４％と増加傾向であり、こちらも４分の１近くの父親が手伝っている。親が忙しいということもあろうが、子どもの自立性を育むためには、子どもにまずさせて、時間をかけて待つことが求められよう。後片づけも同様であり、手伝っ

てする割合が高くなっている。

テレビ視聴時間は５年前に比べて平均１時間から２時間が、２時間から３時間の割合よりも増加し、全体としては若干短くなっているが、３時間以上も母親で１４％から１８％と増加傾向にあり、２極化がみられるといっていいであろう。ただし、現在では５年前に比べてテレビゲームやインターネットなどとの接触機会が増えており、幼児の段階から電子映像メディアに身近に接することが多いといえよう。

②言葉と手伝い

子どもへのあいさつのしつけは両親とも「言えないときに注意する」は約６割で変化がないが、「言えたときにほめる」もここ１０年間では変わらない。学校や地域であいさつの重要性がいわれつつも、家庭にはあまり浸透していないというのがここ１０年の現状であろう。

「言葉使い」について「きびしく注意する」と答えた母親は、ここ１０年間で平成７年２０％、平成１２年２４％、平成１７年２５％と増加傾向であり、４分の１近くの母親が厳しく注意している。父親も平成７年１２％、平成１２年１８％、平成１７年２４％と増加傾向であり、こちらも４分の１近くの父親が厳しく注意している。言葉に関しては大切にする傾向が出ているにもかかわらず、子どもの危機管理のこともあるのかもしれないが、相手とのコミュニケーションの基礎とも言えるあいさつに関して増加していないと言うことは親自身の人間関係のせばまりや社会性の低下と関係があるのではないだろうか。

平成７年の調査報告書では「ほめる」ことの重要性が指摘され、今回の調査結果からも「ほめたり」「叱ったり」といった養育態度の親の割合の増加がみられた。そうした中で、親自身が態度で示したり、子どもの生活習慣をよりよいものへと繰り返し形成していくことに対しては若干の後退がみられた。子育ての自信が必ずしも高まっていない現在こそ、親同士の交流や学習機会への参加によって、親が共同し、支え合っていくことが求められよう。幼児に対して、保育園や幼稚園の担任だけではなく、社会全体で重層的に子育てを支援する態勢が今こそ緊要である。社会の最低限のルールを親同士が確認していく一つの手段として、大半の親が参加する小学校入学前の説明会での家庭教育研修は有効であり、今後は学校やＰＴＡとの連携を深める中で、さらに家庭教育を充実していくための工夫が必要である。

（２） 親子交流

「子どもの仲のよい友達をしっていますか」という問いに、「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した父親は、平成７年よりも６ポイント増加している。「男の子と女の子を区別した注意等」については、父親は平成７年よりも５ポイント下がっている。

子どもの認識と受容では、最近の傾向として父親の子育て参加の意識や実態が調査結果として示された。しかし、育児への参画が進展してきている中で、親の悩みも増加・深刻化している様相も示されており、父親の子育てのあり方に関する学習支援が求められる。

親子交流の実態として、「子どもをほめてやるか」という問いでは、「よくある」の割合が平成７年よりも９ポイント高い。また、「必ず叱る」割合も平成１２年の前回に比べて１０ポイント増加し、スキンシップも「よくしている」割合は、平成７年

よりも父親で１４ポイント、母親で９ポイント増加している。

ほめたり、叱ったり、スキンシップをとったりと、子どもに関わろうとしている多くの熱心な親の姿がみられた。しかし、「話しかけてきたとき」に「いつも聞く」割合は父親で平成７年度調査の４ポイント増に対して、母親は７ポイント割合が低下している。一見、子育てが充実しているようにみえるが、実際は親自身の生活実態や活動との関わりの中で、子どもの主体性を育むような子育てには必ずしもなっていないというのも実態であろう。やはり親が子育てにじっくり関われるハード・ソフト面での態勢が求められる。親が責任をもって子どもと関わるという意識の醸成と共にそれを支える環境づくりが求められよう。

（３） 養育意識

「子育てが楽しい」と思う割合はあまり変化がなく、逆に「楽しくない」親も１割程度相変わらず存在する。子どもに極端な形となって問題として生じるのはこの１割の親からのものが割合として高くなる。「楽しくない」親の場合、「叩いたりしたい」と思う割合が高い。「楽しいと思うことがおおいにある」場合は「イライラして叩いたりしたいと思う」割合は６％であったのに対して、「子育てが楽しいと思うことが全くない」親では５０％と、割合が一気に半数に増大するのである。また「自分一人で子育てをしていると思うことが大いにある」と思っている割合は、「子育てが楽しいと思うことが大いにある」親では５％であったのに対して、「子育てが楽しいと思うことが全くない」親では２２％と、１７ポイントも高くなっている。「楽しい」と感じることの大切さは今回の調査結果からも示されたが、「楽しい」と感じられるための家庭教育がなされているかが問われよう。

「しつけへの自信」は母親はあまり変化が無いのに対して、父親は平成７年４６％だったのに対し、今回は５１％と５ポイント増加している。子育て意識が高まり、関わる割合が増えてきたことが一つの要因であるが、子どもの話をじっくり聞く割合が増加しているわけではない。その一方で「子どものしつけに甘いと思うか」という質問に対して「大変甘い」と「まあまあ甘い」を合わせた「甘い」割合は、１０年間で父親で６ポイント、母親で１０ポイント減少している。多少厳しくしても、「しつけの自信」はあまり変化がないという結果である。

今回の家庭教育調査結果から、家庭教育で最も気を配ることが「生活習慣」から「思いやり」へと移行してきた。人間関係の難しさを親子が身をもって感じていることの現れとも受け取れるが、人間関係づくり体験の少なさ、人との深い交わりのなさの現れとも言えよう。子育ての孤立感やイライラ感を減少させるということも重要であるが、人間関係を自分からよりよいものへと創り上げたり、人間関係における問題を解決できたりするための体験が必要である。そのことこそ、幼児教育に求められる課題であり、集団での直接体験の充実により図られるべき事項であろう。

「悩み」においても１０年間で明らかに増加したであろう項目は「集団生活」である。親自身が集団体験が少なく、苦手になっているのではということも考えられるが、集団生活を意図的に仕組み、幼児期における葛藤体験や失敗体験を、そして成功体験を重ねさせることによって、将来的にしなやかでたくましい人間へと成長できるのではないだろうか。

２．総合的分析と提案

（１） 子どもが主体的に生活していける家庭教育を

今の子どもは就寝時間が遅い。当然睡眠時間も短くなる。基本的な生活習慣のリズムを子どもが少しずつ自分で整えていくことが大切である。子どもは自分自身で楽しみながら生きていくと同時に、社会的な存在として、家庭や地域や社会で役割と責任をもって、一人の大人になるための存在として生活していくことが必要である。そのために幼児期に求められる家庭教育の方向性を押さえていくことが求められる。発達段階を考慮しながらの親の支援が、幼児であるためにより必要ではあるが、幼児の言葉に耳を澄まし、幼児が自己決定しながら判断していく力を付けていくことが今後は不可欠であろう。低学力の問題が指摘される中、どこまで教えるべきなのか、早期教育をしないと子どもに良くないのではという自由意見もみられたが、子どもの発達にとって大切な生活体験学習こそ、今求められるものであろう。

「ほめる」ことなど家庭教育での技術的な面には関心が向けられ、親の取り組みがなされてきている。しかし、人間の基本としての生活習慣がしつけとして習慣づけられていくことが不可欠である。確かに家庭教育は私事性の高いものであるが、家庭教育の基本として「自分がされていやなことはしない」「他人に迷惑をかけない」「社会の一員としての権利と義務を担っていく」などといったことの共通事項の確認が求められてきているのかもしれない。

（２） 行政の取り組みの必要性と協働の育児支援を

調査結果にみられるように、幼稚園と保育所の親の家庭教育には差違があり、それ以上に個々の幼稚園や保育所における幼児教育・保育の実態は多様であることがわかった。６歳児プロブレムと呼ばれる小学校１年時における心身への負担による学校拒否・不適応問題は、一つにはこういった多様な就学前教育、そしてそれとも関わる家庭教育の多様性によるものであろう。行政は多様性を認める幼児教育・保育状況の中で、子どものよりよい心身の発達を保障するために情報提供・交換や交流の場を設けていくなどの取り組みをする必要が有ろう。そして家庭教育に関する情報提供・相談に関する身近な事業を現場や親のニーズを明確にすると同時に、方向性を明示し、独自に展開していく必要も有ろう。

自由記述では「医療の充実」「経済的支援」を求める親の意見が多く、安全な「遊び場」と保育時間の延長を求める意見も多く見られた。安全性の確保のためには地域社会の協力が不可欠であり、既に危機管理のための活動をしている地域社会も多く現れてきている。子どもにとって本当に必要な環境とは何なのか、子どもにとって、特に幼児にとってこの幼児期に必要な体験や学びはどういったもので、どういった方法で拡充するのがよいのか。男女共同参画社会の中で親の就労時間が延長され、自由記述でも保育時間の延長を求める意見が多々見られた。子育て環境を整えていくことは重要であるが、そのことで子どもは置き去りにされる可能性が出てきている。

メディアの問題性として視覚聴覚障害の発生が言われるが、親子の交流や外遊びなど子どもとしての経験を充実することこそ必要である。メディアについての教育などは家庭だけではなく、幼稚園・保育所、地域社会、そしてメディアの提供側と協働しながら、メディアとのよりよい関わり方を子どもが学んでいける地域での協働した機

会が必要である。また、労働時間の短縮や、育児のための企業等の支援、そして何よりも社会全体が子育てや家庭教育を社会の重要な責務として、子育てを認めていく意識を拡充することが重要である。幼稚園と保育所では実態が少し異なっており、しつけや幼児期の教育・保育など幼保を超えた協働の取り組みが今後は必要であろう。

（３） 親も成長できる機会の拡充を

高度情報化社会の中、親は多くの子育て情報を獲得し、そして実際に子育てにそれを生かしている場合も少なくない。しかし、「子育てサークルやサロンは一部の人が独占しているようで入りづらい」という意見も見られ、親子で参加できる事業の情報提供や気軽に相談できる相談機関が少ないという意見も見られた。「親自身がしつけられていないのでは」という自由意見に代表されるように子どもとの本当によい関わり方がわからず、子育てに対する自信を深めることなく、子どもへの圧迫感を醸し出している状況もみられる。親が子育てを振り返り、よりよい家庭教育を行うためには生涯学習が不可欠である。雑誌等による知識だけではなく、子育てに必要な基本的共通事項を理解したり、実際に他の家族と交流したり、多様な子育ての現場に出会ったりといった機会が親を成長させるのではないだろうか。

学校教育における、青少年期の親教育の体系的な実施とともに、産婦人科と小児科が協力して子育てのための学習機会を充実させるなど、親としての教育を段階的・継続的に実施していく必要が出てきているのではないだろうか。確かに父親の家庭教育への意識や参加は着実に増加しつつあるという調査結果であるが家庭教育に充実して携わっているいるとはいい難い。

できるだけ多くの、そして子育てに悩んでいたり、子どもにとって適切とは思えない家庭教育を行っている親に対する学びの機会提供は緊要な課題であろう。親が学び、子育てに生きがいを感じ、人間として成長していくという方向を持ってこそ、子どもも生きる力をつけていくことが可能となりやすいのではないだろうか。

（文責　　井上　豊久）

資　　料　　編

平成17年度　幼児(3･4･5歳児)をもつ保護者の子育てに関する調査実施要項

1　調査の趣旨

近年の家庭教育は、過保護・過干渉の親の増加、また睡眠時間の不足や朝食をとらない子どもの増加、子どもの規範意識の低下や様々な体験活動の不足などが指摘されている。

子どもに対する保護者の養育態度・意識は子どもの発達に大きく関係しており、家庭教育力の向上は緊急かつ重要な課題である。

福岡県では、昭和５５年から５年ごとに、小学生・中学生・乳幼児を持つ保護者を対象に「父親・母親の養育態度・意識の実態調査」を実施してきた。

本年度は、「家庭教育調査委員会」を設置し、３・４・５歳児をもつ親の養育態度や意識の実態についての調査を行い、次の点を検討する。

第一に、３・４・５歳児を持つ親の養育態度や意識の実態について明らかにする。

第二に、平成７年度、平成１２年度に実施した４・５歳児を持つ親の調査と比較し、その経年変化をたどることで、時代とともに変化する親の養育態度や意識を明らかにする。

第三には、保護者の養育態度や意識の実態から、現在の家庭教育の問題点とその原因等を探り、今後の家庭教育支援、子育て支援の在り方や方向性を検討する。

2　調査の実施者

福岡県立社会教育総合センター

3　調査の対象及び人数

県内８地区の３歳児の保護者、４歳児の保護者、５歳児の保護者、計名を対象に調査を行う。

4　調査の実施期間

平成１７年９月１日～３０日

5　調査の方法

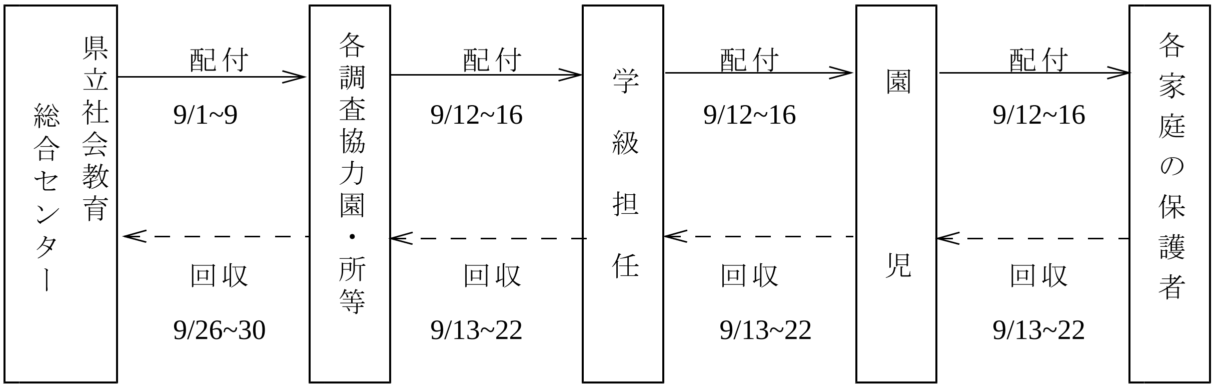
３・４・５歳児とも男性の保護者用､女性の保護者用の質問形式の調査票により行う。ただし、男性と女性の保護者の質問の構成および内容は同一とする。

（１）調査票の配付

調査票は、県立社会教育総合センターが直接、各調査協力幼稚園、保育園（所）に持参し、学級担任をとおして各家庭に配付する。

（２）調査票の回収

調査票は、各家庭の保護者から学級担任をとおして、各調査協力幼稚園、保育園（所）ごとに県立社会教育総合センターが回収する。



６　調　査　票

別紙参照

なお調査票は、子どもの年齢と保護者の性別により次のように色分けする。

	３歳児	４歳児	５歳児
男　性	黄 緑 色	水　色	黄　色
女　性	オレンジ色	桃　色	うすい藤色

７　調査結果の処理

調査結果を家庭教育指導資料としてまとめ、関係機関・団体等に配布する。

８　調査協力幼稚園・保育園（所）・・・前回の調査園に再度依頼する。

教育事務所 政　令　市	幼　稚　園　名 保　育　園（所）名	教育事務所 政令市	幼　稚　園　名 保　育　園（所）名
福　岡　市	福岡市立和白幼稚園 福岡市立雁の巣幼稚園 福岡市大濠聖母幼稚園 福岡市屋形原保育園	北　筑　後 教育事務所	小郡市立三国幼稚園 久留米市立中村保育所 久留米市立大城保育所

教育事務所 政令市	幼稚園名 保育園（所）名	教育事務所 政令市	幼稚園名 保育園（所）名
北九州市	北九州市立足原幼稚園 北九州市立小倉南幼稚園 北九州市花かご保育園 北九州市広済寺保育園 北九州市大川保育園	南筑後 教育事務所	大川市立大野島幼稚園 大川市立東大川幼稚園 大川市立木室幼稚園 大川市立川口幼稚園 柳川市六合保育園
福岡 教育事務所	篠栗町立篠栗幼稚園 篠栗町立北勢門幼稚園 粕屋町立仲原保育所 粕屋町立粕屋西保育所 粕屋町立大川保育所 粕屋町立粕屋中央保育所	筑豊 教育事務所	田川市立伊田幼稚園 田川市立後藤寺幼稚園 田川市紅百合保育園 田川市立西保育所
北九州 教育事務所	中間市中間幼稚園 中間市中間中央幼稚園 鞍手町立剣第一保育所 鞍手町立剣第二保育所 鞍手町立古月保育所 鞍手町立西川第一保育所 鞍手町立西川第二保育所	京築 教育事務所	苅田第一幼稚園 豊津町立豊津保育所 豊津町立祓郷保育所 豊津町立節丸保育所

幼稚園数：１７園　　保育園（所）数：２１園（所）

幼児(３･４･５歳児)をもつ保護者の子育てに関するアンケート

次の表の該当する番号を○で囲んだ後に、アンケートにお答えください。なお、答えは特別に指示があるものをのぞき、選択肢からもっともあてはまるものを１つ選び、□に番号を記入してください。

お子さんの性別	お子さんのきょうだいの中での位置及び年齢	記入者	記入者の年齢	記入者の職業の有無	※記入者が父親・母親の方のみ記入してください。祖父母との同居の有無
１　男 ２　女	１　１人 ２（　　）人きょうだいの（　　）番目 １　満３歳 ２　満４歳 ３　満５歳	１　父親 ２　母親 ３　祖父 ４　祖母 ５　その他	１　１０歳代 ２　２０歳代 ３　３０歳代 ４　４０歳代 ５　５０歳代 ６　６０歳代以上	１　有 ２　無	１　有 ２　無

１　あなたのお子さんは、朝食を食べていますか。
１　毎日食べている　２　ほとんど毎日食べている
３　時々食べている　４　食べていない
1 □

２　あなたのお子さんは、だいたい何時に寝ていますか。
１　午後８時前　２　午後８時～９時　３　午後９時～ 10 時
４　午後 10 時～ 11 時　５　午後 11 時以降
2 □

３ あなたは、今朝お子さんをどのように起こしましたか？
１　声をかけた　２　目覚ましで起きた
３　起こす前に自分で起きた　４　起きるまで放っておいた
3 □

４　あなたは、お子さんに洗顔や歯磨きをどのようにさせてますか？
１　言わなくても子どもがしている　２　言ってさせている
３　手伝ってさせている　４　しなくても子どもに任せている
4 □

５　あなたは、お子さんが遊んだ後の後片付けをどのようにさせていますか？
１　言わなくても子どもがしている　２　言ってさせている
３　手伝ってさせている　４　してやっている
5 □

６　あなたのお子さんは、ふだん１日にどのくらいテレビ（ビデオも含めて）を見ていますか？
１　１時間以下　２　１～２時間　３　２～３時間
４　３～４時間　５　４～５時間　６　５時間以上
6 □

７　あなたのお子さんは、テレビゲーム（携帯型ゲームも含む）を 1 日どれくらいしていますか。
１　全くしない　２　30 分以下　３　30 分～１時間
４　１～２時間　５　２～３時間　６　３時間以上
7 □

８　あなたは、お子さんに「はい」「ありがとう」「おはよう」などの基本的挨拶をどのようにしつけていますか？

１　言わないときに注意する　　２　言えたときにほめてやる　　８

３　注意はしないが、親から言ってみせる　　４　ことさらにしつけてはいない

９　あなたは、お子さんの言葉の乱れや流行語の使用をきちんと注意していますか？

１．厳しく注意している　　２．一応注意している　　９

３．あまり注意していない　　４．全く注意していない

10　あなたはお子さんにどのようにお手伝いをさせていますか？

１　決まったお手伝いをさせている　　２　特に決めていないがさせている

３　無理なのであまりさせていない　　４　全くさせていない　　10

11　あなたは、お子さんの仲のよい友だちを知っていますか？

１　よく知っている　　２　だいたい知っている　　11

３　あまり知らない　　４　全く知らない

12　あなたは、お子さんをほめてやることがありますか？

１　よくある　　２　まあまあある　　12

３　あまりない　　４　全くない

13　あなたは、お子さんをしかることがありますか？

１．よくある　　２．まあまあある　　13

３．あまりない　　４．全くない

14　あなたは、お子さんを「男の子だから」「女の子だから」といって注意したり叱ったりすることがありますか？

１　よくある　　２　まあまあある　　14

３　あまりない　　４　全くない

15　あなたは、子どもが「なに？どうして？」とたずねてきたり、話しかけたりしてきたとき、話を聞いていますか？

１　いつも聞いている　　２　まあまあ聞いている　　15

３　あまり聞いてない　　４　ほとんど聞いてない

16　あなたは、お子さんとおんぶやだっこでスキンシップをしていますか？

１　よくしている　　２　まあまあしている　　16

３　あまりしていない　　４　全くしていない

17　あなたが、お子さんを育てる上で、今、最も気を配っていることは次のうちどれですか？

１　友だちとの関係　　２　基本的生活習慣　　３　自主性（自分で判断する）

４　積極性（物事に取り組む）　　５　忍耐力（我慢する）　　６　知的意欲

７　人や物への思いやり　　８　特にない　　17

９　その他（　　　　　　　　　　　　）

18　あなたのお子さんは、習い事（スポーツ、ピアノ、英会話、習字、学習塾など）に行っていますか？行っているものがあれば、それを具体的に書いてください。　　18

１　行っていない　　２　１つ行っている

３　２つ行っている　　４　３つ以上行っている

＊具体的な習い事（　　　　　　　　　　　　）

19　あなたは、お子さんのしつけに自信がありますか？
　１　大いにある　　　　　　　　　　　２　まあまあある　　　　19
　３　あまりない　　　　　　　　　　　４　全くない

20　あなたは、お子さんのしつけに甘い方ですか。
　１　大変甘い方だと思う　　　　　　　２　まあまあ甘い方だと思う
　３　あまり甘くない方だと思う　　　　４　全く甘くない方だと思う　　20

21　あなたは、子育てが楽しいと思うことがありますか。
　１　大いにある　　　　　　　　　　　２　まあまあある　　　　21
　３　あまりない　　　　　　　　　　　４　全くない

22　あなたは、自分ひとりで子育てをしていると思うことがありますか。
　１　大いにある　　　　　　　　　　　２　まあまあある　　　　22
　３　あまりない　　　　　　　　　　　４　全くない

23　あなたは、子育てにおいてイライラしたりして、お子さんをたたいたりしたいと思うことがどの程度ありますか？
　１　よくある　　　　　　　　　　　２　まあまあある　　　　23
　３　あまりない　　　　　　　　　　４　全くない

24　現在、あなたは子どものことで、不安に思ったり悩んだりしていることはありますか。
　１　ある　　　　　　　　　　　　　　２　特にない　　　　　24

※　「１　ある」と答えた方にお聞きします。
　今、特に不安に思ったり悩んだりしていることは何ですか。該当するものを〇で囲んでください。（複数回答可）

１　身体の発育・発達に関すること	２　健康に関すること
３　話す、書く、読むことなど、知的発達に関すること	
４　友達との遊びや友達関係など、集団生活に関すること	
５　睡眠、排泄、おねしょ、好き嫌い、服の着方など、生活習慣に関すること	
６　反抗や甘えなど、親子関係に関すること	
７　粗暴・飽きっぽい・内気など、性格・情緒に関すること	
８　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）	

25　あなたは、養育・育児のことで不安や悩みはありますか。
　１　ある　　　　　　　　　　　　　　２　特にない　　　　　25

※　「１．ある」と答えた方にお聞きします。
　今、特に不安に思ったり悩んだりしていることは何ですか。該当するものを〇で囲んでください。（複数回答可）

１　経済的なこと	２　子どもの事故や犯罪被害
３　仕事と子育ての両立	４　医療・健康
５　悩みの相談先	６　安全に遊ばせる場所
７　幼稚園、保育園・所から帰った後の子どもの世話について	
８　子どものしつけ等	９　配偶者の協力
10　地域のお父さん、お母さんの中に入れない	11　子どもが好きになれない
12　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）	

26　あなたは、育児で困ったり不安に感じたことを主にどのように解決していますか？

１　親など身内の育児経験者に相談して　２　友人や近所の育児経験者に相談して
３　育児書を読んだりテレビを見たりして　４　幼稚園や保育園の先生に相談して
５　行政や民間の教育相談（電話相談）を利用して
６　医師などの専門家に相談して
７　相談せずに自分で考えて
８　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

26 □

27　あなたは、子育て支援として、どのような支援を望まれますか。
該当するものを○で囲んでください。（複数回答可）

１　子育てに関する情報の提供　２　小児医療の充実
３　経済的負担の軽減　４　子育てと仕事の両立支援
５　親同士の交流促進　６　幼稚・保育園（所）後の保育サービス
７　家庭教育や子育てについて学習する機会　８　家庭教育や子育ての相談機能の充実
９　その他(下の欄にご記入ください)

具体的にお書きください。

28　子育てについて、お悩みや御意見等がありましたら、どのようなことでも結構ですので、御記入ください。

御協力ありがとうございました。

データー集

平成17年度　3･4･5歳児の保護者のデータ集

（単位　%）

		選択肢	全体	3歳児	4歳児	5歳児	男子	女子	幼稚園	保育園
1. 朝食	父親	毎日食べ	83	78	83	86	81	85	87	80
		ほとんど毎	11	14	10	9	12	9	8	13
		時々食べ	5	7	5	4	5	5	4	6
		食べていな	1	1	1	0	1	0	0	1
		無回答	1	1	1	1	1	1	1	1
	母親	毎日食べ	83	78	83	87	84	83	89	79
		ほとんど毎	10	15	10	8	10	11	8	12
		時々食べ	6	6	7	5	6	6	3	8
		食べていな	0	0	1	0	0	0	0	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 就寝時刻	父親	午後8時前	3	3	3	3	4	3	5	2
		午後8時～	23	17	24	25	21	25	31	15
		午後9時～	49	45	47	52	47	50	48	49
		午後10時	22	31	21	18	25	19	13	30
		午後11時	3	4	3	2	3	3	2	4
		無回答	0	0	1	0	0	0	0	0
	母親	午後8時前	3	3	2	2	3	3	5	1
		午後8時～	24	16	26	27	22	26	35	15
		午後9時～	52	50	50	55	53	51	49	54
		午後10時	20	26	20	15	21	19	10	27
		午後11時	2	4	2	1	3	2	1	3
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
3. 起床の仕方	父親	声かけ	44	48	44	41	43	45	38	49
		目覚まし	1	0	1	1	0	1	1	1
		起きた	41	38	40	43	42	39	45	37
		放っておい	9	9	10	9	9	9	10	9
		無回答	6	5	6	6	5	6	5	5
	母親	声かけ	56	54	57	56	54	58	47	62
		目覚まし	1	0	0	2	1	1	1	1
		起きた	41	43	40	41	43	39	48	36
		放っておい	2	2	2	2	2	2	3	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 洗顔、歯磨き	父親	している	11	6	9	17	8	15	13	9
		言っている	52	44	53	56	52	52	56	48
		手伝う	29	41	30	18	31	26	23	34
		任せている	7	8	7	7	8	5	6	8
		無回答	1	1	1	2	2	1	2	1
	母親	している	10	5	9	14	8	12	13	8
		言っている	58	46	60	64	56	61	60	57
		手伝う	29	46	29	18	32	24	25	31
		任せている	3	4	2	4	4	3	3	4
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 後片付け	父親	している	5	2	4	8	4	5	6	4
		言っている	74	68	74	76	74	73	71	76
		手伝う	19	26	20	13	18	19	19	18
		してやる	2	3	2	2	2	2	3	2
		無回答	1	1	1	2	1	1	1	1
	母親	している	6	2	6	9	6	7	7	6
		言っている	68	62	67	73	66	69	67	68
		手伝う	24	32	25	17	26	21	24	24
		してやる	3	4	3	1	2	3	3	2
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
6. テレビ視聴時間	父親	1時間以下	11	13	11	10	10	12	13	9
		1～2時間	34	32	35	35	33	36	36	32
		2～3時間	33	30	33	34	32	33	31	35
		3～4時間	15	19	13	14	16	13	12	18
		4～5時間	5	5	6	5	6	4	5	6
		5時間以上	2	1	2	1	2	1	2	1
		無回答	1	1	1	1	1	1	2	0
	母親	1時間以下	13	15	11	12	10	16	16	10
		1～2時間	39	38	38	40	38	39	40	36
		2～3時間	32	29	34	31	33	31	28	35
		3～4時間	12	13	12	12	13	10	12	13
		4～5時間	5	5	5	4	6	4	4	5
		5時間以上	1	0	1	1	0	1	1	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
	父親	全くしない	64	82	64	52	56	74	60	67
		30分以下	18	12	19	22	18	18	20	17
		30分～1	11	4	11	16	15	6	12	10
		1～2時間	5	2	5	7	8	2	5	5
		2～3時間	1	0	1	2	2	0	1	1

7. テレビゲーム時間		3時間以上	0	0	0	0	0	0	1	0
		無回答	1	1	1	1	1	0	1	0
	母親	全くしない	66	84	66	54	58	75	61	71
		30分以下	18	12	18	22	18	18	21	15
		30分～1	11	4	12	15	16	5	12	11
		1～2時間	4	1	3	6	6	1	5	3
		2～3時間	1	0	1	2	2	0	1	1
		3時間以上	0	0	0	0	0	0	0	0
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 基本的挨拶	父親	注意する	60	58	58	63	61	59	58	62
		ほめる	16	20	16	12	14	17	16	15
		親から言う	18	18	19	17	18	19	19	18
		してない	6	5	6	6	6	5	6	5
		無回答	1	0	1	1	0	1	1	0
	母親	注意する	62	54	63	64	60	62	60	63
		ほめる	18	22	17	17	17	20	17	18
		親から言う	19	22	19	18	22	17	21	17
		してない	1	2	1	1	1	1	1	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 言葉・流行語	父親	厳しく注意	23	20	25	23	22	24	23	23
		一応注意	51	51	51	50	52	50	51	50
		あまりしな	22	25	21	23	22	23	20	24
		全くしない	4	4	3	4	4	3	5	3
		無回答	0	0	1	0	0	0	1	0
	母親	厳しく注意	25	24	23	28	24	25	24	25
		一応注意	65	65	67	63	64	66	67	64
		あまりしな	9	9	9	9	10	9	8	10
		全くしない	1	1	1	1	2	1	1	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
10. お手伝い	父親	決めている	9	5	8	13	9	9	11	8
		させている	75	73	77	73	73	76	73	77
		無理	9	13	9	6	10	8	8	9
		全くさせな	6	8	5	5	5	6	6	6
		無回答	2	1	1	2	2	1	2	1
	母親	決めている	12	8	10	16	12	12	15	9
		させている	78	76	81	77	77	80	77	79
		無理	7	12	6	5	8	6	6	8
		全くさせな	3	3	2	3	3	2	2	3
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
11. 友だち関係	父親	よく知る	11	8	9	15	11	11	11	11
		だいたい知	45	42	46	46	47	44	45	46
		あまり知ら	34	37	33	32	31	36	34	34
		全く知らな	10	12	11	7	10	9	10	9
		無回答	0	0	1	0	0	0	1	0
	母親	よく知る	39	27	36	49	35	42	49	30
		だいたい知	52	56	55	47	54	51	46	58
		あまり知ら	8	15	8	4	9	7	5	11
		全く知らな	1	2	1	0	1	0	0	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
12. ほめる	父親	よくある	39	42	38	37	36	42	39	39
		まあまあある	53	51	53	54	53	51	52	53
		あまりない	8	6	8	9	9	6	8	8
		全くない	0	1	0	1	1	0	0	0
		無回答	0	0	1	0	0	0	1	0
	母親	よくある	44	51	41	42	45	44	44	44
		まあまあある	53	46	56	53	53	53	53	52
		あまりない	3	3	2	4	3	4	3	4
		全くない	0	0	0	0	0	0	0	0
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
13. 叱る	父親	よくある	46	50	48	41	50	41	42	49
		まあまあある	43	42	40	47	41	45	45	42
		あまりない	10	7	11	11	8	11	11	8
		全くない	1	1	1	1	0	2	1	1
		無回答	0	0	1	1	0	1	1	0
	母親	よくある	66	68	66	65	68	65	68	65
		まあまあある	31	29	32	32	30	33	29	32
		あまりない	3	3	2	3	2	3	3	2
		全くない	0	0	0	0	0	0	0	0
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
14. 性区別	父親	よくある	10	9	11	10	13	7	9	11
		まあまあある	30	31	30	30	33	27	28	33
		あまりない	39	38	38	42	36	44	40	39
		全くない	20	21	20	18	18	22	22	18
		無回答	0	0	1	0	0	0	1	0
		よくある	7	7	7	6	7	6	7	7

	母親	まあまああ	29	28	30	30	28	31	28	30
		あまりない	45	45	44	46	46	44	44	45
		全くない	19	21	19	19	20	20	21	18
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
15. 対話	父親	いつも聞く	38	39	38	38	38	38	40	36
		まあまあ聞	56	55	56	55	55	57	53	59
		あまり聞か	6	5	5	6	6	5	6	5
		聞かない	0	0	1	0	0	0	0	0
		無回答	0	0	1	0	0	0	1	0
	母親	いつも聞く	39	41	38	40	39	39	40	39
		まあまあ聞	58	56	60	58	58	58	58	58
		あまり聞か	2	3	2	3	2	3	2	2
		聞かない	0	0	0	0	0	0	0	0
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
16. スキンシップ	父親	よくする	50	55	53	44	49	53	49	53
		まあまあし	38	37	35	43	39	36	40	36
		あまりして	10	8	10	12	11	10	11	10
		全くしてい	1	1	1	1	1	0	0	1
		無回答	1	0	1	1	1	1	1	0
	母親	よくする	52	57	53	48	54	49	51	52
		まあまあし	39	39	39	40	39	40	39	39
		あまりして	9	4	8	12	7	11	10	8
		全くしてい	1	1	0	1	1	1	0	1
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
17. 子育ての重点	父親	友だちとの	6	5	5	7	6	6	7	5
		基本的生活	25	26	26	23	23	27	24	26
		自主性	14	14	14	15	16	12	13	15
		積極性	8	8	8	8	9	7	9	7
		忍耐力	8	11	7	8	10	7	7	9
		知的意欲	2	3	2	2	3	1	3	2
		思いやり	32	27	34	32	29	34	32	31
		特にない	4	6	3	3	4	4	3	5
		その他	1	1	1	1	1	1	1	2
		無回答	1	1	1	1	1	1	1	0
	母親	友だちとの	6	5	7	6	6	6	7	6
		基本的生活	28	31	28	26	25	30	31	25
		自主性	10	9	9	11	9	11	11	9
		積極性	5	5	4	5	6	4	5	5
		忍耐力	8	9	8	8	10	6	6	9
		知的意欲	1	1	1	1	1	1	1	1
		思いやり	39	37	39	40	39	39	38	40
		特にない	2	2	2	1	2	2	1	3
		その他	1	1	1	1	1	1	1	1
		無回答	0	1	1	0	1	0	0	1
18. 習い事	父親	行っていな	59	78	61	45	62	56	49	69
		1つ	27	16	28	32	26	27	31	22
		2つ	11	5	9	17	9	13	15	8
		3つ以上	3	1	2	5	2	4	4	1
		無回答	1	1	1	1	1	1	1	1
	母親	行っていな	60	78	62	46	63	57	47	71
		1つ	26	17	27	31	25	27	32	21
		2つ	10	4	9	17	9	12	15	7
		3つ以上	4	1	2	7	3	4	6	2
		無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
19・しつけの自信	父親	大いにある	7	5	7	7	5	8	6	7
		まあまああ	43	42	44	44	44	43	46	44
		あまりない	40	40	41	39	40	40	40	43
		全くない	4	4	3	5	4	4	5	4
		無回答	6	8	5	5	6	4	4	3
	母親	大いにある	2	1	1	2	2	1	2	2
		まあまああ	32	30	31	35	32	32	37	31
		あまりない	52	53	55	49	51	54	53	55
		全くない	6	7	6	6	7	5	5	7
		無回答	8	10	7	7	8	7	4	5
20. しつけの甘さ	父親	大変甘い	7	7	6	6	6	7	7	6
		まあまあ甘	50	48	51	51	49	52	53	50
		あまり甘く	32	28	32	34	33	31	32	34
		全く甘くな	6	8	6	4	6	6	5	7
		無回答	6	8	5	5	6	4	4	3
	母親	大変甘い	2	2	3	2	2	3	2	3
		まあまあ甘	39	39	40	38	41	36	39	40
		あまり甘く	46	44	46	47	44	48	48	46
		全く甘くな	6	5	5	6	5	6	6	5
		無回答	8	10	7	8	8	7	5	5
		大いにある	32	31	34	32	32	32	31	35

21. 子育ての楽しさ	父親	まあまああ	53	55	52	54	52	55	56	53
		あまりない	8	6	9	9	9	7	8	8
		全くない	1	1	1	1	1	1	1	1
		無回答	6	8	5	5	6	4	4	2
	母親	大いにある	32	32	29	34	32	31	33	33
		まあまああ	52	49	56	50	51	52	54	53
		あまりない	8	8	8	9	8	8	8	9
		全くない	1	1	1	0	1	1	1	1
		無回答	8	10	7	8	8	7	5	5
22. ひとりで子育て	父親	大いにある	1	1	1	1	1	1	1	1
		まあまああ	4	5	3	4	4	4	3	5
		あまりない	26	24	28	26	24	29	25	29
		全くない	63	62	63	65	64	62	68	62
		無回答	6	8	5	5	6	4	4	3
	母親	大いにある	11	11	10	10	10	12	11	11
		まあまああ	26	27	26	25	26	25	29	25
		あまりない	38	37	38	38	37	38	38	39
		全くない	19	15	19	20	19	18	18	20
		無回答	8	10	7	7	8	7	4	5
23. 子育てイライラ	父親	大いにある	7	8	6	6	7	6	6	8
		まあまああ	31	34	31	30	33	30	28	36
		あまりない	40	34	42	42	38	42	46	36
		全くない	17	16	16	18	16	18	17	17
		無回答	6	8	5	5	6	4	4	2
	母親	大いにある	11	11	12	10	10	13	14	10
		まあまああ	41	42	43	38	43	39	41	43
		あまりない	32	30	32	34	32	33	33	33
		全くない	8	6	7	10	8	8	8	9
		無回答	8	10	7	8	8	7	5	5
24. 子どもの不安・悩み	父親	ある	30	30	32	28	32	27	29	32
		特にない	64	61	63	67	61	67	67	65
		無回答	6	9	6	5	7	5	5	3
		発育・発達	4	3	4	5	4	3	3	5
		健康	7	6	7	6	7	6	6	8
		知的発達	7	5	8	7	10	4	7	7
		集団生活	13	10	14	14	14	13	15	12
		生活習慣	6	8	7	4	8	5	6	7
		親子関係	7	7	9	5	7	7	6	8
		性格・情緒	10	9	12	8	12	8	10	11
		その他	1	2	1	1	1	1	1	1
	母親	ある	42	41	43	42	44	40	44	43
		特にない	49	50	50	49	47	52	51	51
		無回答	9	10	8	9	9	8	5	6
		発育・発達	5	6	5	5	6	4	5	5
		健康	7	7	8	7	8	7	8	8
		知的発達	9	8	9	10	12	6	8	10
		集団生活	17	12	19	18	18	16	19	17
		生活習慣	10	13	10	9	12	9	11	10
		親子関係	14	16	14	13	15	13	12	16
		性格・情緒	16	16	16	16	18	15	17	17
		その他	3	4	3	3	3	3	3	3
25. 育児不安・悩み	父親	ある	39	39	39	38	39	38	35	44
		特にない	56	52	56	57	54	57	61	54
		無回答	6	8	5	5	6	5	4	3
		済的なこと	16	18	16	15	18	14	15	18
		・犯罪被害	22	20	22	23	21	24	21	24
		育ての両立	6	7	4	6	6	5	3	8
		医療・健康	8	10	7	8	9	7	6	11
		の相談先	1	1	1	1	1	1	0	1
		遊び場所	11	12	10	10	11	10	9	12
		後の世話	2	2	2	3	2	2	1	3
		しつけ等	12	13	14	10	13	11	11	14
		者の協力	1	1	1	1	0	1	0	1
		入れない	1	1	1	1	1	1	1	1
		なれない	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	1	2	2	1	1	2	1	2
	母親	ある	54	56	53	53	55	53	53	58
		特にない	38	34	40	39	37	39	42	36
		無回答	8	10	7	8	8	8	5	6
		済的なこと	23	26	23	22	24	23	20	28
		・犯罪被害	29	29	27	31	28	30	30	29
		育ての両立	16	20	14	15	16	15	7	23
		医療・健康	12	12	11	12	12	12	12	13
		の相談先	2	3	2	2	3	2	2	2
		遊び場所	17	16	16	19	17	17	18	17

		後の世話	6	8	5	6	6	6	5	7
		しつけ等	23	24	24	21	25	21	23	24
		者の協力	6	6	5	6	6	5	6	6
		入れない	2	3	1	2	2	2	1	3
		なれない	0	0	0	0	1	0	0	0
		その他	2	2	2	1	2	1	2	2
26. 解決方法	父親	親・身内	35	36	36	32	33	37	33	38
		友人・近所	13	12	12	13	13	13	13	13
		育児書	4	3	4	3	3	4	5	2
		先生	2	3	2	2	2	2	2	2
		教育相談	0	1	0	0	0	0	0	1
		等専門家	1	1	1	1	1	1	1	1
		相談しない	25	22	22	29	26	23	24	26
		その他	11	10	12	11	11	11	13	10
		無回答	11	12	11	10	12	9	9	8
	母親	親・身内	37	38	42	33	37	38	38	39
		友人・近所	36	32	36	39	36	37	42	34
		育児書	2	2	2	3	2	2	3	2
		先生	5	5	4	6	5	6	5	6
		教育相談	0	0	1	0	0	0	0	1
		等専門家	1	1	1	0	1	1	1	1
		相談しない	5	6	3	6	5	5	4	7
		その他	4	5	4	4	5	4	3	5
		無回答	9	12	8	8	9	9	5	7
27. 支援内容	父親	子育て情	16	15	15	17	16	15	17	15
		小児医療	45	45	48	41	44	46	44	48
		経済的負	61	59	63	59	59	63	63	62
		子育てと仕	20	20	22	18	19	22	15	26
		親どうしの	7	7	6	7	7	6	8	6
		帰宅後の	13	12	14	12	12	14	14	13
		学習機会	6	8	4	6	6	5	7	6
		相談機能	6	5	6	7	6	6	8	4
		その他	5	4	5	5	4	6	6	4
	母親	子育て情	18	20	16	19	19	18	20	18
		小児医療	51	50	52	52	52	52	55	52
		経済的負	63	66	64	61	64	63	65	65
		子育てと仕	37	37	37	37	37	37	28	47
		親どうしの	6	7	6	6	7	6	6	6
		帰宅後の	25	25	25	26	26	25	29	24
		学習機会	9	10	7	9	9	8	9	9
		相談機能	7	10	5	7	7	6	8	7
		その他	10	9	10	11	9	11	13	9

平成１７年度
「幼児（３・４・５歳児）をもつ保護者の
子育てに関する調査のまとめ」

（冊子版）平成１８年３月発行
（電子版）平成１９年６月発行
福岡県立社会教育総合センター
福岡県糟屋郡篠栗町大字金出３３５０－２
TEL(092)947-3511　　FAX(092)947-8029

※　本報告書（電子版）は、平成１８年度に作成した冊子版報告書を、平成１９年度、ホームページでの公開を目的として OCR による読み取りその他の方法（文字の訂正・グラフの再作成含む）で電子化したものです。
そのため、グラフ等において冊子版とは若干の差異があります。